

日本消防



●消防団120年・自治体消防65周年記念大会 増大号



1
2014

□ 絵 平成26年 消防出初式

新春のご挨拶	（財）日本消防協会 会長 秋本 敏文	1
年頭の辞	総務大臣 新藤 義孝	2
年頭の辞	消防庁長官 大石 利雄	3
年頭の辞	全国消防長会 会長 大江 秀敏	4
消防団120年・自治体消防65周年記念大会—天皇皇后両陛下のご臨席のもと開催—		
	（財）日本消防協会	5
東西南北（鹿児島）「結いのこころ それこそが力なり」	奄美市消防団 団長 安田 和廣	36
東西南北（福井）「不死鳥福井」	福井市消防団 団長 藤田 貞武	38
東西南北（和歌山）「地域社会を守る消防団」	かつらぎ町消防団 団長 木村 幸義	40
シンフォニー（福岡県）「第21回全国女性消防操法大会に出場して～厳しい訓練と暖かい応援に感謝～」		
	太宰府市消防団 女性部 部長 平田 和美	42
消防団活動事例「笑顔のため、僕に出来ること」		
	松山市消防団 大学生防災サポーター 香川 直輝	44
「消防団応援の店」に関する検討会を開催	（財）日本消防協会	46
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」大石利雄 消防庁長官 出演		48
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介		50
第17回消防個人年金海外視察	（財）日本消防協会 年金共済部	53
第13回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクール	生活協同組合 全日本消防人共済会	54
消火栓や防火水槽付近への駐車は禁止されています	総務省 消防庁 消防・救急課	56
消防団への入団促進	総務省 消防庁 防災課	57
地震発生時の出火防止	総務省 消防庁 防災課	58
「親子で学ぶ楽しい消防教室」	江南市消防本部	59
うちの名物団員		60
消防団の広場（島根県）「絆が強まった平成25年 夏」		
	江津市消防団 団長 横田 賢次郎	61
消防団の広場（宮城県）「全国女性消防団活性化ぎふ大会に参加して」		
	栗原市消防団花山地区団 団員 三塚 ひろみ	62

編集後記

表紙写真説明

「活発化している桜島」

市街地に接近し、錦江湾に浮かぶ桜島。大正3年の大噴火から100年が過ぎた。大正火口は年間800回を超える爆発を続け、近年活発化している。火山の恩恵に浸りながらも大規模な噴火への備えが怠れない。

（鹿児島県）

平成26年 消防出初式



1月12日(日) 野洲市消防出初式



1月7日(水) 埼玉西部消防局・所沢市消防出初式



1月12日(日) 岩国市消防出初式



1月6日(月) 東京消防出初式



1月12日(日) 伏西市消防出初式



1月12日(日)
坂戸・鶴ヶ島消防組合
消防出初め式



1月12日(日) 和泉市消防出初式



1月5日(日) 釧路市消防出初式



1月11日(土) 行田市消防出初式



1月12日(日) 藤沢市消防出初式



1月12日(日) 朝霞市消防出初式



1月5日(日) 茨城市消防出初式



1月10日(金) 川崎市幸地区消防出初式



1月5日(日) 美濃加茂市消防出初式



1月12日(日)
守口市消防団・門真市消防団・守口市門真市消防組合
3機関合同出初式

新春のご挨拶

（勳）日本消防協会 会長 秋本 敏文



新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、平成26年が皆様にとってよい年でありますよう心からお祈り申し上げます。

全国の消防団員、職員の皆様は、異常な気象条件がつづくなど、心休まる日がないなかで、日夜、地域の安全のため、ご尽力頂いております。あらためて深く感謝申しあげ、心から敬意を表します。

さて、昨年は、11月25日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、東京ドームにおいて、消防団120年・自治体消防65周年記念大会を開催いたしました。大会冒頭、両陛下にもご臨席頂いて、東日本大震災などで殉職された御霊に対し、深く哀悼の誠を捧げる黙祷を行いました。このような時、殉職は無くさなければならぬとあらためて痛感いたします。

記念大会は、式典の他、伝統演技、放水・救助・救急などの消防実技、さらに消防応援団の皆さんなどによる士気高揚の歌など盛り沢山でしたが、本当に多くの方々のご協力のおかげで無事終わることができました。深く感謝申し上げます。

今回の大会の特色は、百年以上にわたる日本消防の歩みを振り返りながら、将来に向かって、あらゆる災害・事故に対処する我が国消防の一層の体制強化に邁進する決意を明らかにする点にあります。それが「消防未来宣言」でした。

一方、臨時国会において「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。これは、平成24年2月、日本消防協会において決定し、各方面に要請した意見が基礎になっていると申しあげてもよいかと思いますが、消防団が不可欠のものであることを明記するとともに、消防団の装備の充実、団員の処遇の改善など消防団に対する支援の方向づけを示し、さらに、消防団を中核とした地域の防災力を強化する具体的な施策を定めるものであり、日本消防史において画期的な意味をもつものだと思います。これが、国民の代表である国会において皆さんのご賛成のもと成立しました。大変大きな意味を持つ法律であり、国民の皆様の期待がここに結集していると思われま。

そのような中で、新しい年を迎えました。私たちは、今年の記念大会での決意を根底にもちながら、新しい法律をいかし、国民の皆様のご支持ご支援を頂きながら、より強固な消防体制づくりに一層の努力をしなければならないと思います。多くの課題はありますが、全国の消防関係者が力を合わせて前進する年にしたいものと思います。

消防団員、職員の皆様の益々のご健勝ご多幸をお祈り申しあげて新年のご挨拶といたします。

年 頭 の 辞

総務大臣 新藤 義孝



平成26年の新春を迎え、全国の消防防災関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年11月に「消防団120年・自治体消防65周年記念大会」が、天皇皇后両陛下ご臨席のもと約3万7,000人の消防関係者等が参加して盛大に挙行され、我が国の消防の歩みを振り返るとともに、永年にわたって消防活動へ多大な貢献をされた方々に対する表彰が行われました。今日、我が国の消防は着実な発展を遂げ、国民の安心・安全の確保に大きく貢献しておりますが、これは、ひとえに、数多くの消防関係者のご努力の賜物であり、先人達に対して心から感謝を申し上げる次第です。

災害等から国民の生命、身体及び財産を守り、安心・安全を確保することは、消防の責務であります。近年では、災害の複雑多様化に加え、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生も危惧されており、消防の果たす役割はますます大きくなろうとしております。消防行政を所管する大臣として、「国民の命を守る」というミッションのもと、ドラゴンハイパー・コマンドユニットの創設をはじめとする緊急消防援助隊の機動能力の強化、消防団の充実・強化、消防防災通信基盤の強化など、更なる消防防災体制の拡充・強化を図ってまいります。

このうち、消防団については、かつて200万人を超えていた消防団員数が、今や87万人を割り込むまで減少してきておりますが、その一方で、消防団員の果たす役割はますます高まっており、そのことは、東日本大震災でも昨年の伊豆大島の台風災害においても、十分に再認識されました。そのため、昨年11月には、総務大臣名で全ての地方公共団体の長あてに親展書簡をお送りし、特に、地域に密接している地方公務員の入団促進を依頼したところです。また、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が昨年12月に成立しましたので、今後、この法律に基づき、消防団員の確保と併せて、消防団の装備・訓練教育の充実等についても積極的に推進してまいります。

結びに、今年一年が、皆様が元気に安心して暮らせる年であることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

消防庁長官 大石 利雄



平成26年の新春を迎え、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防活動にご尽力頂いております全国の消防関係者の皆様に、改めて感謝と敬意を表します。

我が国の消防は、関係各位の努力の積み重ねにより、着実に進展しており、昨年11月25日には、消防団120年、自治体消防65周年の記念式典が天皇、皇后両陛下のご臨席の下に盛大に挙行されました。

今日、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模地震の発生が危惧される中で、国民の消防に対する期待は益々高まっています。

昨年は、夏に各地で記録的豪雨が発生し、10月には台風26号が伊豆大島を襲い大きな被害をもたらしました。また、長崎市の認知症グループホームや福知山市の花火大会、福岡市の有床診療所などにおける火災により多くの方が犠牲になりました。

このように、大規模化、複雑多様化する災害や事故から国民の生命、身体及び財産を守るため、着実に消防防災体制の強化を図る必要があります。

消防庁としては、平成26年度予算編成においては、東日本大震災からの教訓を踏まえながら(1)大規模災害やコンビナート災害への対応力を強化するなど緊急消防援助隊の拡充(2)Jアラートの自動起動機の整備や消防救急無線のデジタル化等による消防通信基盤の整備さらには(3)消防団への加入促進と装備・訓練の充実を3本柱として予算の確保に努めています。特に消防団については、昨年の臨時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が議員立法により全党一致で成立したことを踏まえ、この法律に基づく施策の推進に努めて参ります。

また、一連の火災被害への対応として、高齢者福祉施設等におけるスプリンクラーの設置義務拡大、屋外イベント会場における防火責任者の選定と消火器設置の義務化や有床診療所における防火対策の強化に取り組んでいます。

さらに、当面の大きな課題である「消防の広域化」を積極的に推進し、消防体制を強化するとともに、救急患者の病院搬送の円滑化を図るため「救急と医療の連携強化」を促進して参ります。

関係の皆様方におかれましても、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

全国消防長会 会長 大江 秀敏



平成26年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

消防団員の皆様方におかれましては、各種災害から住民の生命、身体、財産を守るため平素から訓練に励まれ、災害対応はもとより、震災等大規模災害発生時には、関係機関と連携した活動に従事されるなど、昼夜を分かたず住民が安全で安心して暮らせる地域づくりに全力を挙げ、多大な貢献をされております。

ここに改めて、深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

さて、去年は、全国各地におきまして、予測困難な局地的竜巻や集中豪雨、さらには、伊豆大島の土砂災害を引き起こした大型台風など、自然災害により多くの尊い人命と貴重な財産が失われるという甚大な被害が発生しております。

また、多数の死傷者が発生した診療所火災や廃油再生工場の爆発火災など、地域住民の安全を脅かす災害は後を絶ちません。加えて、南海トラフ巨大地震や首都直下地震等の発生が危惧され、常備消防はもとより、地域防災の要として活動されている消防団に寄せられる期待は、益々大きくなっております。

このような状況の中、全国消防長会といたしましては、地域の総合的な防災力の強化を核とした震災等大規模災害対策をはじめ、大規模な自然災害等に的確に対応する緊急消防援助隊の効果的な運用による広域消防応援体制の充実・強化、消防の広域化への対応、さらには、災害現場などで発生した受傷事故に対する反省を踏まえた安全管理対策の徹底など、消防防災体制をより一層充実させるための各種施策を積極的かつ強力に推進してまいり所存です。

昨年11月25日には、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、消防団120年・自治体消防65周年記念大会を開催したところですが、「自らの地域は自ら守る」という郷土愛の精神からなる消防団の存在は、今後一層、重要性を増すとともに、その活躍が大いに期待されているところであります。

今後とも皆様方をはじめとする関係団体との緊密な連携のもと、住民が安全で安心して暮らせる地域社会の実現に向けて全力を挙げて取り組んでまいりますので、引き続きご尽力いただくとともに、全国消防長会に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方が、消防防災力のさらなる向上のため、地域のリーダーとして益々ご活躍されますとともに、本年が災害のない平穏な一年でありますことを心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

消防団120年・自治体消防65周年記念大会 —天皇皇后両陛下のご臨席のもと開催—

(財)日本消防協会

1 大会の趣旨

平成25年11月25日（月）、日本消防協会と全国消防長会の共催により、東京ドームに天皇皇后両陛下をお迎えし、消防団120年・自治体消防65周年記念大会を開催しました。全国から消防団員をはじめ、消防職員、婦人防火クラブ、少年消防クラブなど約3万7千人もの皆さんにご参加いただきました。今回は初めて公募により一般の方々にも参加していただきました。

平成25年は、第二次大戦後の自治体消防制度発足から65周年ですので、これまでの例ですと、この65周年を記念する大会となるのですが、今回は、初めて「消防団120年」を加えました。これは、国の消防制度の面からだけでなく、日本消防の実体である消防組織や活動の歩みを振り返り、先人のご尽力に思いを寄せながら、東日本大震災などの教訓を生かして一層強固な消防体制づくりを目指す大会にしたいという考え方で検討した結果なのですが、明治27年の消防組規則制定により、我が国で初めて全国的に統一された姿で消防団の前身である消防組がスタートし、これが全国的な消防組織のスタートであると考えられ、この時から平成25年は120年を迎えますので「消防団120年」を大会の名称に加えました。

百年余にわたる歴史の中で、日本消防の先人の皆さんは様々な災害や事故と闘ってこられました。その過程で技術面でも大きく進歩してきました。このような積み重ねがあるからこそ、今日の日本消防があります。大会においては、そのような発展の跡を現実の消火活動の変遷など、限られたものではありませんが、会場の皆さんの眼前で展開することとしました。さらに、それらを踏まえながら、大規模な地震の発生などに対処するこれからの消防体制づくりへの決意を「消防未来宣言」として決定しました。

こうした内容を骨子とする今回の大会のテーマは「消防 その愛と力」といたしました。消防活動を支えるものは、家族、隣人、地域を大切に思う気持ち、「愛」だと思われれます。そして、これが現実には火を消し、人を助ける「力」にならなければなりません。このようなことを思いながら、大会テーマを決定し、これに沿って様々な盛り沢山の内容を持つ大会といたしました。

大会にご参加いただいた皆さんからは、概ね高いご評価をいただいております、本当にこれを新たな発展へのスタートにしなければなりません。



式典開始時の様子



全国から3万7千人が東京ドームへ参集



消防関係者で埋めつくされたスタンド

2 大会プログラム

大会は以下のとおり大変盛り沢山でしたが、これを徳光和夫さんと平野啓子さんの司会で進めました。

(1) 開会前プログラム

8時25分～10時00分

- ① 「検証 阪神淡路大震災と消防」「自ら守る！ 消防団120年」上映
- ② 劇団「ふるきやら」の歌 「地震カミナリ火事オヤジ スペシャルメドレー」
- ③ 栗田 けんじさんの歌「笑顔のふるさと築くため」

- 〈注〉
- 1 早朝から入場していただきますので、開会までの時間を楽しんでいただくように今回初めてこのようなプログラムを作りました。
 - 2 今大会では、映像にも力点を置き、大画面でかつ鮮明な画像を提供できるよう幅13.8m×高さ7.8mのLEDスクリーンを採用しました。進行に併せた映像の表示や会場の状況などを迫力ある大画面で提供しました。
 - 3 「検証 阪神淡路大震災と消防」は、緊急消防援助隊による全国的な応援体制とともに、地域の即応体制が重要であることをご理解いただくよう、当時の消防庁が制作したものです。「自ら守る！ 消防団120年」は、今回の大会に合わせて「消防団120年史」という概説書とともに、数々の災害との闘いの歴史を振り返るために日本消防協会が新たに制作したものです。
 - 4 「ふるきやら」の皆さんと栗田けんじさんは、それぞれ式典につなぐ素晴らしい歌などを披露していただきました。



徳光和夫さん、平野啓子さんの司会で進行



大迫力の大型LEDスクリーンの映像



「ふるぎゃら」による歌、ダンスの披露



栗田けんじさんの熱唱

(2) 特別来賓ご入場

特別来賓としてご覧の方々にお越しいただきました。



前列左から

安倍晋三内閣総理大臣 伊吹文明衆議院議長 山崎正明参議院議長 竹崎博充最高裁判所長官
新藤義孝総務大臣 古屋圭司防災担当大臣

後列左二人目から

関口昌一総務副大臣 伊藤忠彦総務大臣政務官 大石利雄消防庁長官

(3) 消防伝統演技 – 江戸時代の町火消の伝統を受け継ぐ消防演技 – 10時00分～10時15分

- ① 木遣り (江戸消防記念会)
- ② 纏振り (全国から97本の纏)
- ③ はしご乗り (仙台市消防団<青葉、宮城野、太白、泉>4本、江戸消防記念会6本、金沢市消防団連合会4本。計14本)

- 〈注〉 1 江戸消防記念会の木遣りに合わせて全国から集まった纏が一齐に勇壮に振られ、続いて江戸消防記念会、仙台市（青葉・宮城野・太白・泉）消防団、金沢市消防団連合会によるはしご乗りでは、高さ6メートル以上のはしごの上部で妙技を繰り出し、会場から盛んな拍手が送られていました。
- 2 消防伝統演技終了後、第一部式典に参列するため、式典参列団員1,410名が速やかに整列しました。続いて、長野県ラッパ隊の皆さんがファンファーレを演奏し、天皇皇后両陛下をお迎えする準備が整いました。



消防伝統演技で溢れたグラウンド



演技の開始を待つ伝統消防演技出演者



江戸消防記念会による木遣り



全国から集まった纏演技者



木遣りに合わせて纏を豪快に振ります



いよいよはしご乗りの開始



息の合った演技を披露



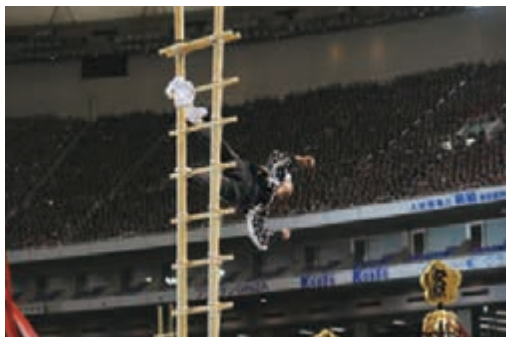
一致団結してはしごを支えます



震災復興、皆の願い



次々と繰り出される見事な演技



華麗で勇敢な演技を披露する度に、客席から大歓声が上がりました



式典参列団員の整列完了



記念式典開始のファンファーレ

(4) 天皇皇后両陛下ご臨席 10時17分



天皇皇后両陛下の威風堂々のご入場に割れんばかりの拍手が起こりました

(5) 黙祷 10時18分

〈注〉 大会開会に当たり、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、東日本大震災をはじめとする数々の災害・事故により殉職された消防関係者の御霊に対し、深い黙祷が捧げられました。



参加者全員が脱帽しての深い黙祷

(6) 第一部 記念式典 10時20分～11時00分

① 開式の辞 日本消防協会副会長 秋田 治夫（大阪府消防協会会長）

② 国歌斉唱

③ 式 辞 日本消防協会会長 秋本 敏文

〈注〉 当時国会で協議されており、その後成立した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の早期成立への期待を表明していました。（式辞は、21ページに全文掲載しています）

④ 表 彰

各表彰及び代表受領者は、次のとおり

内閣総理大臣表彰 福島県消防協会会長 佐藤 茂 様

総務大臣表彰 東京経済大学教授 吉井 博明 様

日本消防協会会長表彰

- ・ 特別功労者表彰 三重県消防協会会長 谷口 繁喜 様
- ・ 婦人消防隊育成功労者表彰 愛知県婦人消防クラブ連絡協議会会長
永坂 幸子 様
- ・ 消防団協力者表彰 愛媛県四国地方郵便局会専務理事 岡 秀 様
- ・ 永年勤続功労者表彰 島根県消防協会会長 松浦 嘉昭 様
- ・ 消防団員家族表彰 和歌山県消防協会会長 谷中 幹夫 様

全国消防長会会長表彰

広島県広島市消防局長 滝澤 宏二 様

日本防火・防災協会会長表彰

- ・ 優良幼年消防クラブ表彰 常陸太田市立太田進徳幼稚園幼年消防クラブ 様
 - ・ 優良少年消防クラブ表彰 気仙沼市立階上中学校少年消防クラブ 様
 - ・ 優良婦人防火クラブ表彰 那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会 様
- ⑤ 祝 辞 内閣総理大臣 安倍 晋三 様
衆議院議長 伊吹 文明 様
参議院議長 山崎 正昭 様
最高裁判所長官 竹崎 博允 様

〈注〉 安倍内閣総理大臣は、「先陣を切って災害現場に駆け付け、献身的に活動する皆さんには大きな信頼と期待が寄せられている。政府として将来の大規模な災害に備え強靱な国づくりと徹底した防災・減災対策を進め、国民の安全を守っていく」と述べられるなど、それぞれ消防に対する期待と応援のお気持ちを述べていただきました。

- ⑥ 閉式の辞 日本消防協会副会長 渡邊 茂治（山形県消防協会会長）



秋田副会長による開始の辞



会場一体となつての国歌斉唱



秋本会長による式辞



内閣総理大臣表彰 佐藤 茂 様



総務大臣表彰 吉井 博明 様



日本消防協会表彰 谷口 繁喜 様



日本防火・防災協会表彰 太田進徳幼稚園幼年消防クラブ 様



全国消防長会表彰 滝澤 宏二 様



安倍 晋三 内閣総理大臣による祝辞



渡邊副会長による閉式の辞

(7) 天皇皇后両陛下ご退席

式典の終了により、天皇皇后両陛下がご退席されましたが、その時天皇陛下が場内に向かってお手を振られ、場内から大きな拍手が湧き上がりました。大変感動的な場面でした。



厳かな雰囲気の中行われた式典が終了し天皇皇后両陛下がご退席

(8) 第二部 消防実技 - 日本消防の歩みと展望 - 11時00分～11時30分

① 放水訓練

〈注〉 菅原文太さんのナレーションにより、完全防水工事をしたグラウンド内でおよそ100年の消火活動の発展を展開して頂きました。消防団員によるおよそ100年前の腕用ポンプ10台の放水は迫力十分で圧巻でした。次いでおよそ50年前のオート三輪ポンプ車、現代の消防団多機能車による放水。さらにD級可搬ポンプによる小中学生の放水演技が続き、次代を担う小中学生に対し、場内の熱い視線が寄せられました。

② 大地震発生を想定した救助救急訓練

〈注〉 平野啓子さんのナレーションにより、婦人防火クラブや消防団による応急手当、救助活動のほか、常備消防が高度な救助活動を実施し、その模様に会場の皆さんが息を吞んで注目しました。最新の8輪駆動水陸両用バギー車や軽トラックの可搬ポンプ積載車に救助機材を合わせて積載する車両など、新しい消防の動きを示す展示もありました。



ナレーションの菅原文太さん



長野県、中部地区、九州地区ラッパ隊による
訓練開始ファンファーレ



「放水はじめ」の伝達をする山梨県ラッパ隊



腕用ポンプによる力強い放水



力を合わせて懸命にポンプで水を汲みあげ



今でも放水できる三輪ポンプ車



将来の防火の担い手による放水活動



婦人防火クラブによる応急手当



重機隊による力強く効率的な活動



特別救助隊による迫力の救助訓練



はしご車による高所救出訓練



8輪駆動水陸両用バギーの力強い走行

(9) 第三部 消防の士気高揚 11時30分～12時45分

① 消防音楽隊の演奏、カラーガード隊のドリル演技

〈注〉 フェンス際に位置した204人のラッパ隊のファンファーレに始まり、消防音楽隊による「宇宙戦艦ヤマト」の演奏とカラーガード隊によるパフォーマンスで一気に明るく楽しい第三部の雰囲気を作られました。

② 幼年消防クラブ鼓笛隊の演奏

〈注〉 二つの幼稚園の鼓笛隊の伸び伸びと元気な演奏はその見事さと愛らしさで会場を魅了しました。

③ AKB48、布施 明さん、水前寺 清子さんの歌

〈注〉 それぞれ特徴のある歌、ダンスとトークで会場は一段と盛り上がりました。このときは消防団員や婦人防火クラブの皆さんもグラウンドに入ってもらいました。AKB48の主要メンバーの皆さんの「掌が語ること」は東日本大震災のことを改めて思い起こさせました。布施明さんの「マイウェイ」は会場の皆さんに人の生き方を力強く訴え、大トリの水前寺清子さんは最後に歌っていただいた替え歌の元歌である本物の「三百六十五歩のマーチ」を消防の制服姿で明るく歌って頂きました。

④ 消防応援団の皆さんによる激励トーク

〈注〉 ご出演いただいた皆さんの総登場、そして小倉優子さんも一緒に消防団への熱い応援メッセージを頂きました。長時間にわたる全体の司会でご尽力頂いた徳光和夫さんと平野啓子さん、それに秋本会長も参加しました。

⑤ 消防応援歌「消防団 三百六十五歩のマーチ」とパフォーマンス

〈注〉 全国公募作品の中での最優秀賞である宮城県の後藤さん夫妻（ご主人は消防職員、奥様は消防団員）の歌詞で「消防団三百六十五歩のマーチ」を水前寺清子さんと一緒に会場全体の皆さんも歌い、さらに劇団「ふるきやら」の振付で元気に踊りました。まさに大フィナーレでした。

⑥ 消防未来宣言

〈注〉 「消防未来宣言」は今大会の狙いがここに凝縮する大きな意味のあるものです。宣言案の朗読は、5人の中堅若手の消防団員、職員によって力強く行われ、満場の拍手で採択されました。

平成24年全国消防操法大会ポンプ車の部優勝 岡山県和気町消防団 我澤 和宏 様
 平成24年全国消防操法大会小型ポンプの部優勝 長崎県壱岐市消防団 平田 征史 様
 平成25年全国女性消防操法大会優勝 宮城県大和町消防団 蜂谷 澄江 様
 第36回全国消防職員意見発表 愛知県田原市消防本部 遠山 直也 様
 第36回全国消防職員意見発表 千葉県習志野市消防本部 市川 奈央子 様

消 防 未 来 宣 言

日本消防は百年以上にわたる先人のご尽力によって発展し、今日広く信頼を得るに至っている。

私たち消防人は、自らの地域は自ら守るという先人の熱い思いを受け継ぎ、国民の皆さんのご理解ご協力のもと、全国一致団結し、新しい技術等も積極的に導入しながら、少年、女性を含む地域住民の皆さんとともに、より強固な未来の日本消防づくりにまい進する。そうして社会経済の進展に伴い変化を見せるあらゆる災害事故に対処し、国民の安全を守るため、全力を尽くすことを固く誓い、ここに宣言する。

⑦ 万歳三唱 日本消防協会副会長 石田 詔夫（東京都消防協会会長）

〈注〉 盛り沢山の3時間以上にわたる記念大会の最後は、声高らかな万歳三唱で締めくくりました。



ラッパ隊204人による勇壮なファンファーレ



消防音楽隊による力強い演奏



消防音楽隊とカラーガード隊の演奏演技で第三部の雰囲気が一気に盛り上がりました



カラーガード隊による艶やかな息の合ったパフォーマンス



子供たちの可愛く見事な演奏で会場を魅了



「ふるきやら」による振付の指導



復興ソングを歌うAKB48



布施明さんの素晴らしい歌声



水前寺清子さんの元気な歌声で会場がヒートアップ



消防応援団による熱いメッセージ



会場が一体となったフィナーレ



未来宣言は満場の拍手で採択



石田副会長による万歳三唱



会場の皆さんは、満面の笑みを湛えていました



記念大会終了後も会場内外で、余韻を楽しむ姿が見られました



3 大会の総括

記念大会の開催には、一々申し上げることができない位、いろいろな面で多くの方々にご協力いただきました。皆さんのご協力がなければ無事開催することはできなかったでしょう。心から深く感謝申し上げます。

大会の結果を総括的に申し上げます。

まず、東京ドーム一杯、超満員のご参加をいただいたことです。特に消防団員の皆さんにはお仕事との調整などの問題があったらうと思いますが、37,000人ものの方々にご参加いただきました。

これは消防の結束力、存在の大きさをご来賓の方々など一般の皆さんにはっきりと承知して頂くこととなりました。また、消防関係者としても全国の多くの仲間の存在、連帯の強さを実感していただくことができたと思います。やはり規模、数は力です。

次に、大会内容も評価されたといっただろうと思います。

大きくは第一部記念式典、第二部は百年余の日本消防の歩みと今後の展望、第三部に入って消防の士気高揚、最後に大会宣言で締めくくりとしました。このような多彩な内容の大会は初めてといっただいと思います、これは多くの方々から評価していただきました。

記念式典には天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、安倍内閣総理大臣をはじめとする、いわゆる三権の長の皆様全員にご出席をいただき、それぞれご祝辞をいただいたことは、消防に対する皆様の認識、評価の高さを示すものであり、消防関係者にとって大きな感激になりました。

第二部は短時間のうちに日本消防の発展の歩みを眼前にご覧頂くことができました。第三部はグラウンド内への入場もあり、多彩な出演者の熱演で大いに盛り上がりました。

また、これらを極めて要領よく、無駄な時間を省いて能率的に展開することができたと思います。

最後の「消防未来宣言」は、この大会を単なるお祭りのイベントで終わらせるのではなく日本消防の一層の発展への新しいスタート台にするという意味で大変重要なものでありましたが、5人の中堅若手消防団員・消防職員の朗読、満場の大拍手できっちり締めくくることができました。本当に新たなスタートにしなければなりません。

消防団120年・自治体消防65周年記念大会はこのようにして無事に終わることができました。ご援助を頂いた多数の機関、ご協力いただいた多くの方々を重ねて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



出場団体一覧

●消防伝統演技

木遣り

東京 江戸消防記念会

はしご乗り

宮城 仙台市青葉消防団

仙台市宮城野消防団

仙台市太白消防団

仙台市泉消防団

東京 江戸消防記念会

石川 金沢市消防団連合会

纏振り

北海道 美唄市消防団、

胆振東部消防組合鶴川消防団

青森 弘前市消防団

岩手 盛岡市消防団、宮古市消防団

宮城 仙台市青葉消防団、仙台市宮城

野消防団、仙台市太白消防団、

仙台市泉消防団

山形 鶴岡市消防団

新潟 新発田市消防団、五泉市消防団

東京 江戸消防記念会

神奈川 相模原市消防団、

茅ヶ崎古式消防保存会

埼玉 浦和若鷲会

千葉 松戸鷹工業組合、松戸若鷲会、

柏若鷲会

茨城 龍ヶ崎若鷲会

山梨 甲府市消防記念会

長野 飯田市消防団、大町市消防団

石川 金沢市消防団連合会

富山 富山市消防団、高岡市消防団

三重 名張市消防団

愛知 豊田市消防団、大口町消防団

静岡 浜松市消防団、三島市消防団

岐阜 美濃加茂市消防団

大阪 松原市消防団

兵庫 たつの市消防団

滋賀 彦根鷹保存会

鳥取 鳥取市消防団

広島 福山市消防団、安芸太田町消防団

山口 下関市消防団、岩国市消防団

徳島 徳島市消防団、鳴門市消防団

香川 さぬき市消防団

愛媛 松山市消防団、今治市消防団

高知 高知市消防団、本山町消防団

長崎 島原市消防団、壱岐市消防団

福岡 福岡市消防団、宇美町消防団

佐賀 佐賀市消防団、神埼市消防団

熊本 熊本市消防団、美里町消防団

●消防団ラッパ隊演奏

山梨 山梨市消防団

長野 佐久穂町消防団、小諸市消防団、

佐久市消防団、軽井沢町消防団、

御代田町消防団、立科町消防団、

上田市消防団、東御市消防団、

長和町消防団、青木村消防団、

千曲市消防団、坂城町消防団、

須坂市消防団、長野市消防団、

中野市消防団

愛知 豊田市消防団

静岡 袋井市消防団

岐阜 郡上市消防団

熊本 菊池市消防団

宮崎 宮崎市消防団、延岡市消防団、

都城市消防団

●放水訓練

腕用ポンプ

神奈川 横須賀市消防団、三浦市消防団、

大和市消防団

埼玉 桶川市消防団、熊谷市消防団、

坂戸市消防団、鶴ヶ島市消防団

千葉 習志野市消防団

茨城 大子町消防団

三輪ポンプ車

長野 上田市消防団、

上田市丸子地域自治センター

蒸気ポンプ車 (展示)

岩手 一関市消防団

消防団多機能型消防車

東京 東久留米市消防団

埼玉 羽生市消防団

D級可搬ポンプ

秋田 能代市少年消防団

福島 田村市立大越中学校少年消防ク

ラブ

東京 品川区立荏原第一中学校一消

防隊

品川区立大崎中学校大崎ミニボ

ンプ隊

品川区立浜川中学校

北区立堀船中学校

神奈川 海老名市少年消防クラブ

埼玉 三郷市少年消防クラブ

高知 梶原学園少年消防クラブ

●大地震を想定した救助救急訓練

応急手当

静岡 静岡県女性防火クラブ連絡協議会

救助工作車

東京 東京消防庁

神奈川 横浜市消防局

指揮隊車

東京 東京消防庁

先端屈折式はしご車

千葉 千葉市消防局

神奈川 川崎市消防局

救急車

埼玉 さいたま市消防局

消防団救助資器材型搭載車両

茨城 取手市消防団

軽救助資器材車

東京 開発中メーカー

活動員

埼玉 羽生市消防団

茨城 取手市消防団

神奈川 横浜市港北消防団(女性消防団員)

茨城 笠間市消防団(女性消防団員)

消防団重機隊 (バックホー)

千葉 旭市消防団

水陸両用バギー車

消防庁消防研究センター

●消防の士気高揚

消防音楽隊

埼玉 さいたま市消防音楽隊

千葉 千葉市消防音楽隊

東京 東京消防庁音楽隊

神奈川 横浜市消防音楽隊

川崎市消防音楽隊

カラーガード隊

東京 東京消防庁カラーガード隊

神奈川 横浜市消防音楽隊ポートエンジ

ェルス119

川崎市消防音楽隊カラーガード

隊レッド・ウイングス

鼓笛隊

神奈川 川崎市平山学園幼稚園

埼玉 川口市川口ふたば幼稚園

フィナーレ (消防団 三百六十五歩のマーチ)

婦人防火クラブ、消防団有志のみなさん

－ 式 辞 －

本日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、安倍内閣総理大臣をはじめとするご来賓多数のご出席のもと、全国消防関係者のご参加により、消防団百二十年・自治体消防六十五周年の記念大会を開催することができますことは、このうえない感激であり、よろこびであります。

我が国消防は、全国にわたって消防署と消防団が存在し、連携して活動するという他に例を見ない世界最高の体制であります。この今日の姿は百年以上にわたって先人の皆さんが懸命なご尽力を頂いた、そのおかげであると存じます。本日の大会にあたり、私たちはこのことを思い、大会の名称に初めて消防団百二十年を加えました。

一昨年、東日本大震災におきましては、我が国消防は全国的な応援出動も加えて長期にわたる幅広い活動を展開し、これは多くの方々に高く評価されましたが、一方、未だかつてない多数の消防団員等が殉職するという痛恨極まる事態となりました。心からご冥福をお祈りしますとともに、このようなことは決してくり返してはならないと強く思うものであります。そのような中で、今後においても消防はあらゆる災害、事故に対応しなければなりません。その活動を支えるのは家族、隣人、地域への愛であり、これが火を消し、人を助けるなどの現実の力にならなければなりません。この、消防の愛と力を今回の大会テーマにいたしました。私ども消防関係者は、国民の皆さんのご支持のもと、関係の方々のご支援を頂きながら、一致団結して、装備、訓練の充実、消防団員の確保などをさらに進めなければなりません。なお多くの課題があります。

この時にあたり、国会においては消防団を中心とする地域防災力の強化を推進し、消防団に対する支援を充実する法案が協議されております。私どもとしてはできる限り早期の新法成立で、この大会に大輪の花を添えて頂くことを心から期待いたしております。本日の大会と新法を日本消防の新たな発展へのスタート台として、国民の皆様様の安心安全のため、より一層強固な消防体制を作り上げるよう全力を傾けてまいります。

最後に、全国消防関係者がこれからも益々元気に活動されますよう期待しますとともに、本日の大会開催にご協力頂いた方々に対し深く感謝申し上げ式辞といたします。

消防団120年・自治体消防65周年記念 表彰名簿

表彰内容

内閣総理大臣表彰	15名・50機関
総務大臣表彰	15名
日本消防協会会長表彰	
特別功労者表彰	3名
婦人消防隊育成功労者表彰	17名
消防団協力者表彰	23名
永年勤続功労者表彰	250名
消防団員家族表彰	587家族・1840名
全国消防長会会長表彰	35名
日本防火・防災協会会長表彰	120団体

※内閣総理大臣表彰※

個人 (15名)

都道府県名	所属名	階級	氏名
青森	つがる市消防団	団長	箱田 鐵雄
岩手	葛巻町消防団	団長	長岡 宏
宮城	大郷町消防団	団長	高橋 荒雄
福島	須賀川市消防団	団長	佐藤 茂
石川	輪島市消防団	団長	中山 勝
静岡	裾野市消防団	団長	今関 正興
三重	桑名市消防団	団長	柴田 清勝
大阪	島本町消防団	団長	辻本 清志
岡山	総社市消防団	団長	大月 亮
広島	安芸太田町消防団	団長	丸山 正隆
山口	山口市消防団	団長	大隅 博志
愛媛	上島町消防団	団長	檜垣 秀明
高知	室戸市消防団	団長	太田 博久
佐賀	大町町消防団	団長	原田 守
鹿児島	南さつま市消防団	団長	東馬場 伸

団体

(50機関)

(消防団)

都道府県名	所 属 名
岩手	花巻市消防団
岩手	遠野市消防団
岩手	平泉町消防団
岩手	住田町消防団
岩手	洋野町消防団
岩手	一関市消防団
宮城	白石市消防団
宮城	登米市消防団
宮城	栗原市消防団
宮城	利府町消防団
宮城	大郷町消防団
宮城	富谷町消防団

(消防本部)

都道府県名	所 属 名
北海道	札幌市消防局
青森	青森地域広域消防事務組合消防本部
秋田	秋田市消防本部
山形	山形市消防本部
茨城	水戸市消防本部
栃木	宇都宮市消防本部
群馬	前橋市消防局
埼玉	さいたま市消防局
千葉	千葉市消防局
新潟	新潟市消防局
富山	富山市消防局
石川	金沢市消防局

※内閣総理大臣表彰※

団体

都道府県名	所 属 名
福 井	福 井 市 消 防 局
山 梨	甲府地区広域行政事務組合消防本部
長 野	長 野 市 消 防 局
岐 阜	岐 阜 市 消 防 本 部
静 岡	静 岡 市 消 防 局
三 重	四 日 市 市 消 防 本 部
滋 賀	大 津 市 消 防 局
奈 良	奈 良 市 消 防 局
和 歌 山	和 歌 山 市 消 防 局
鳥 取	鳥取県東部広域行政管理組合消防局
鳥 根	松 江 市 消 防 本 部
岡 山	岡 山 市 消 防 局
広 島	広 島 市 消 防 局

都道府県名	所 属 名
山 口	下 関 市 消 防 局
徳 島	徳 島 市 消 防 局
香 川	高 松 市 消 防 局
愛 媛	松 山 市 消 防 局
高 知	高 知 市 消 防 局
福 岡	福 岡 市 消 防 局
佐 賀	佐 賀 広 域 消 防 局
長 崎	長 崎 市 消 防 局
熊 本	熊 本 市 消 防 局
大 分	大 分 市 消 防 局
宮 崎	宮 崎 市 消 防 局
鹿 児 島	鹿 児 島 市 消 防 局
沖 縄	那 覇 市 消 防 本 部

※総務大臣表彰※

(15名)

氏 名
大河内 美保
金子 均
小出 由美子
善養寺 幸子
高梨 成子
林 春男
吉井 博明
岡田 榮一
田上 征
豊永 義夫
溝口 武
前田 衛
山本 忠
松本 スミ子
林 麗子

※日本消防協会会長表彰※

特別功労者表彰

(3名)

都道府県名	役職名	氏名
山形	一般財団法人山形県消防協会会長	渡邊 茂治
三重	三重県消防協会会長	谷口 繁喜
大阪	公益財団法人大阪府消防協会会長	秋田 治夫

※日本消防協会会長表彰※

婦人消防隊育成功労者表彰

(17名)

都道府県名	所属名	氏名
岩手	岩手県婦人消防連絡協議会	千葉とき子
宮城	宮城県婦人防火クラブ連絡協議会	後藤 重子
秋田	北秋田市婦人消防隊	成田 秀子
福島	相馬市女性消防隊	立谷 品子
神奈川	宿河原町会婦人消防隊	花塚早百合
埼玉	井泉地区婦人防火クラブ	中矢 道子
茨城	大みかコミュニティ女性防火クラブ消防隊	橋本 弘子
愛知	碧南市婦人消防隊	永坂 幸子
京都	北稲婦人防火クラブ	奥西 恵美
大阪	摂津市婦人防火クラブ連絡会	田賀 弥生
奈良	天理市婦人消防隊	山下 幸子
滋賀	山上町女性防火クラブ	徳永恵美子
滋賀	宇賀野婦人消防隊	西澤 清代
和歌山	和歌山市婦人防火クラブ連合会	須佐光佐子
島根	東光台婦人消防隊	山口 洋枝
高知	梶原町女性消防隊	山口真知子
佐賀	大町町婦人消防協力隊	森 カラル

※日本消防協会会長表彰※

消防団協力者表彰

(23名・団体)

都道府県名	氏名(団体名)
北海道	倶知安消防協力会
岩手	岩手県消友会
宮城	後藤常良
秋田	株式会社秋田新電元
新潟	見附市消防後援会
東京	法人格成城自治会
神奈川	茅ヶ崎古式消防保存会
埼玉	株式会社埼玉新聞社
埼玉	ふかや農業協同組合
茨城	稲葉修一
長野	飯田市赤十字奉仕団
富山	水橋防火協力会
岐阜	明知ガイシ株式会社
京都	城陽市消防協力会
兵庫	中谷紹公
奈良	介護老人保健施設 大和田の里
岡山	津山消防協力会
愛媛	多賀秀夫
愛媛	岡 秀
高知	本間大介
福岡	片倉嗣朗
宮崎	原田 誠
鹿児島	指宿市消防後援会

※日本消防協会会長表彰※

永年勤続功労者表彰

(250名)

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
北海道	札幌市中央消防団	副分団長	松 山 弘
北海道	札幌市白石消防団	団 長	森 誠 二
北海道	札幌市白石消防団	副団長	荒 井 良 一
北海道	札幌市豊平消防団	団 長	松 本 吉 正
北海道	札幌市西消防団	副本部長	吉 田 秀 雄
北海道	札幌市西消防団	分団長	尾 崎 武
北海道	札幌市西消防団	部 長	坂 井 弘 義
北海道	札幌市西消防団	部 長	石 川 秋 夫
北海道	札幌市西消防団	部 長	石 川 春 義
北海道	札幌市手稲消防団	団 長	安 澤 正 美
北海道	石狩北部地区消防事務組合 石 狩 消 防 団	副団長	瀧 内 幸 一
北海道	長万部町消防団	副団長	佐 藤 重 吉
北海道	檜山広域行政組合 奥 尻 町 消 防 団	部 長	廣 川 弘 明
北海道	檜山広域行政組合 せたな町檜山消防団	団 長	氏 家 忠 幸
北海道	檜山広域行政組合 せたな町大成消防団	分団長	杉 村 正 利
北海道	岩内・寿都地方 消防組合寿都消防団	団 長	今 野 岩 男
北海道	北後志消防組合 赤 井 川 消 防 団	団 長	二 川 春 雄
北海道	北後志消防組合 仁 木 消 防 団	団 長	渡 淳
北海道	歌志内市消防団	団 長	相 原 稔
北海道	滝川地区広域消防事務組合 雨 竜 消 防 団	団 長	松 浦 伸 治
北海道	砂川地区広域消防組合 砂 川 消 防 団	団 長	堀 與 一
北海道	砂川地区広域消防組合 上 砂 川 消 防 団	副団長	菅 井 英 吉
北海道	上川中部消防組合 比 布 消 防 団	団 長	佐 藤 直 一
北海道	上川中部消防組合 愛 別 消 防 団	団 長	中 井 廣 明
北海道	旭川市消防団	班 長	千 葉 弘
北海道	北留萌消防組合 天 塩 町 消 防 団	団 長	西 畑 義 勝
北海道	稚内地区消防事務組合 豊 富 消 防 団	分団長	福 原 隆
北海道	北見地区消防組合 訓 子 府 消 防 団	団 長	坂 井 悠 紀

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
北海道	網走地区消防組合 東 藻 琴 消 防 団	団 長	原 紺 盛 雄
北海道	苫小牧市消防団	団 長	矢 内 信 一
北海道	室 蘭 市 消 防 団	団 長	西 澤 幸 治
北海道	胆振東部消防組合 厚 真 消 防 団	団 長	木 村 幸 一
北海道	西胆振消防組合 洞 爺 湖 消 防 団	団 長	寺 島 勉
北海道	西胆振消防組合 壮 警 消 防 団	副団長	高 橋 克 夫
北海道	登別市消防団	団 長	成 田 幸 久
北海道	日高中部消防組合 新 冠 消 防 団	団 長	林 健 一
北海道	日高中部消防組合 三 石 消 防 団	団 長	片 山 英 夫
北海道	西十勝消防組合 新 得 消 防 団	団 長	平 川 勲
北海道	南十勝消防事務組合 広 尾 町 消 防 団	分団長	我 妻 政 一
北海道	釧路市消防団	副団長	平 間 正 光
北海道	釧路北部消防事務組合 弟 子 屈 消 防 団	副分団長	村 田 隆
青 森	鱒ヶ沢町消防団	団 長	工 藤 清 三
青 森	鱒ヶ沢町消防団	分団長	後 藤 隆 男
青 森	板柳町消防団	団 長	工 藤 勝 夫
岩 手	盛岡市消防団	団 長	西 村 紀 昭
岩 手	盛岡市消防団	分団長	毛 藤 明
岩 手	大槌町消防団	団 長	煙 山 佳 成
岩 手	宮古市消防団	団 長	山 下 修 治
岩 手	宮古市消防団	副団長	出 雲 民 臣
岩 手	山田町消防団	副団長	佐 々 木 清 通
岩 手	山田町消防団	副団長	内 館 市 幸
岩 手	岩泉町消防団	団 長	赤 坂 啓 吾
岩 手	一関市消防団	団 長	大 森 忠 雄
岩 手	普代村消防団	副団長	中 村 好 宏
岩 手	岩手町消防団	団 員	田 村 博
宮 城	村田町消防団	副団長	高 山 平 八
宮 城	七ヶ浜町消防団	団 長	渡 邊 初 男
宮 城	多賀城市消防団	団 長	佐 藤 甚 一 郎

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
宮 城	塩竈市浦戸消防団	副分団長	尾 形 勝 利
宮 城	大 郷 町 消 防 団	団 長	高 橋 荒 雄
宮 城	加 美 町 消 防 団	団 長	文 屋 征 紀
宮 城	涌 谷 町 消 防 団	団 長	横 山 武 彦
宮 城	女 川 町 消 防 団	分団長	小 山 正 一
宮 城	気仙沼市消防団	分団長	吉 田 貞 夫
秋 田	大 仙 市 消 防 団	分団長	佐 藤 芳 男
秋 田	湯 沢 市 消 防 団	副団長	加 納 敬 悦
山 形	尾花沢市消防団	団 長	柳 橋 莊 三 郎
山 形	真室川町消防団	団 長	斉 藤 克 美
山 形	鮭 川 村 消 防 団	団 長	畑 崎 久 雄
山 形	山 形 市 消 防 団	副団長	石 山 博
福 島	相 馬 市 消 防 団	団 長	荒 忠 夫
新 潟	糸魚川市消防団	団 長	池 亀 六 男
東 京	神 田 消 防 団	団 長	中 田 禎 一
東 京	京 橋 消 防 団	副団長	松 戸 純 一
東 京	日 本 橋 消 防 団	団 長	大 塚 義 男
東 京	日 本 橋 消 防 団	副団長	赤 川 進
東 京	日 本 橋 消 防 団	副団長	大 武 邦
東 京	臨 港 消 防 団	団 長	村 上 幸 雄
東 京	大 井 消 防 団	副分団長	浅 見 光 利
東 京	大 井 消 防 団	部 長	加 藤 清 一
東 京	田 園 調 布 消 防 団	部 長	篠 原 善 正
東 京	矢 口 消 防 団	部 長	栗 田 徳 太 郎
東 京	目 黒 消 防 団	団 員	高 橋 輝 男
東 京	玉 川 消 防 団	副分団長	福 井 一 郎
東 京	本 郷 消 防 団	分団長	太 田 勝 康
東 京	本 郷 消 防 団	副分団長	丸 山 雅 夫
東 京	豊 島 消 防 団	副団長	瀧 澤 光 雄
東 京	練 馬 消 防 団	団 長	福 島 博
東 京	町 田 市 消 防 団	団 員	矢 口 秀 夫
神 奈 川	川 崎 市 川 崎 消 防 団	団 長	奥 山 義 男
神 奈 川	横 浜 市 青 葉 消 防 団	副団長	森 田 喜 八 郎

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
神 奈 川	川 崎 市 川 崎 消 防 団	副団長	工 藤 宏
埼 玉	さいたま市消防団	副団長	倉 田 健 次
埼 玉	さいたま市消防団	団 員	小 谷 野 泰 彦
千 葉	松 戸 市 消 防 団	団 長	齋 藤 和 實
茨 城	大 洗 町 消 防 団	団 長	米 川 不 二 夫
茨 城	結 城 市 消 防 団	団 長	館 野 祐 二 郎
茨 城	龍ヶ崎市消防団	団 員	竹 中 邦 夫
栃 木	栃 木 市 消 防 団	分団長	森 戸 忠 雄
栃 木	日 光 市 日 光 消 防 団	団 長	篠 田 英 夫
石 川	輪 島 市 消 防 団	分団長	山 田 政 雄
三 重	鈴 鹿 市 消 防 団	団 長	藤 田 充
三 重	四 日 市 市 消 防 団	副分団長	加 藤 清 男
三 重	四 日 市 市 消 防 団	部 長	羽 藤 惠 一
三 重	津 市 消 防 団	分団長	本 橋 克 己
三 重	伊 勢 市 消 防 団	副団長	羽 田 肇
三 重	尾 鷲 市 消 防 団	分団長	谷 口 昇
三 重	熊 野 市 消 防 団	団 員	栗 須 育 次
愛 知	名 古 屋 市 自 由ヶ丘 消 防 団	副団長	加 藤 義 彦
愛 知	名 古 屋 市 葵 消 防 団	班 長	下 里 之 夫
愛 知	名 古 屋 市 明 倫 消 防 団	団 員	瀬 口 勝
愛 知	名 古 屋 市 金 城 消 防 団	団 長	竹 内 幸 也
愛 知	名 古 屋 市 東 志 賀 消 防 団	団 長	大 島 弘
愛 知	名 古 屋 市 清 水 消 防 団	団 長	長 谷 川 義 春
愛 知	名 古 屋 市 橘 消 防 団	団 長	森 川 英 治
愛 知	名 古 屋 市 栄 消 防 団	副団長	山 田 正 夫
愛 知	名 古 屋 市 松 原 消 防 団	副団長	松 井 重 道
愛 知	名 古 屋 市 伊 勝 消 防 団	団 長	大 矢 勝 哉
愛 知	名 古 屋 市 御 器 所 消 防 団	団 員	近 藤 清
愛 知	名 古 屋 市 堀 田 消 防 団	団 長	兎 毛 成 績
愛 知	名 古 屋 市 堀 田 消 防 団	副団長	村 瀬 満 重
愛 知	名 古 屋 市 御 劔 消 防 団	団 長	奥 村 昇
愛 知	名 古 屋 市 正 色 消 防 団	団 長	加 藤 順 三
愛 知	名 古 屋 市 大 磯 消 防 団	団 長	鈴 木 弘 明

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
愛 知	名古屋市守山消防団	団 長	今 吉 恒 明
愛 知	名古屋市白沢消防団	副団長	長谷川尚道
愛 知	名古屋市小幡北消防団	副団長	中 村 貞 雄
愛 知	名古屋市豊が丘消防団	団 長	横 地 稔
愛 知	春日井市消防団	団 員	伊 藤 博
京 都	京都市左京消防団	団 長	梅 景 繁 治
京 都	京都市左京消防団	団 員	橋 中 日 出 夫
京 都	京都市左京消防団	班 長	西 村 泰 治
京 都	京都市左京消防団	団 員	日 下 部 信 男
京 都	京都市左京消防団	分団長	正 木 昇 治
京 都	京都市左京消防団	副分団長	芳 賀 芳 朗
京 都	京都市左京消防団	団 員	鋸 屋 政 夫
京 都	京都市左京消防団	団 員	高 橋 富 男
京 都	京都市中京消防団	副団長	野 村 直 二
京 都	京都市中京消防団	団 員	山 形 政 男
京 都	京都市東山消防団	部 長	北 川 昇
京 都	京都市下京消防団	副団長	林 貞 男
京 都	舞鶴市南消防団	団 員	矢 野 榮 一
大 阪	岬 町 消 防 団	団 長	大 塚 馨
大 阪	松原市消防団	団 長	二 木 宰 之
大 阪	吹田市消防団	団 長	海 原 明
兵 庫	神戸市須磨消防団	団 員	森 田 清 記
兵 庫	神戸市須磨消防団	団 員	荒 内 拓 美
兵 庫	西宮市消防団	団 長	松 本 俊 治
兵 庫	西宮市消防団	分団長	長 宗 成 夫
兵 庫	西宮市消防団	班 長	小 島 庄 三
兵 庫	三田市消防団	副団長	藤 田 忠 成
兵 庫	たつの市消防団	副団長	榊 本 雅 之
兵 庫	香美町消防団	団 長	青 山 喜 一
奈 良	天理市消防団	団 長	岡 田 徳 義
奈 良	野迫川村消防団	団 長	津 守 良 直
奈 良	十津川村消防団	団 長	栗 栖 規
奈 良	田原本町消防団	分団長	前 田 勝 弘

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
奈 良	桜井市消防団	団 員	山 口 康 弘
和 歌 山	和歌山市消防団	部 長	多 田 道 生
和 歌 山	海南市消防団	団 員	藤 坂 典 生
和 歌 山	新宮市消防団	部 長	芝 泰 幸
和 歌 山	紀の川市消防団	団 員	中 東 雍 和
和 歌 山	紀美野町消防団	団 長	池 本 光 男
和 歌 山	湯浅町消防団	副団長	古 田 順 一
島 根	松江市消防団	団 長	松 浦 嘉 昭
島 根	松江市消防団	分団長	後 藤 勇
島 根	浜田市消防団	副団長	小 林 修 司
島 根	江津市消防団	団 長	横 田 賢 次 郎
島 根	美郷町消防団	団 長	三 谷 松 男
岡 山	笠岡市消防団	分団長	萬 福 哲 三
岡 山	総社市消防団	団 長	大 月 亮
岡 山	津山市消防団	団 員	廣 戸 士 郎
岡 山	津山市消防団	分団長	波 田 恒 宏
岡 山	新見市消防団	団 長	塩 飽 満 路
広 島	呉市消防団	班 長	北 東 彌 一 郎
広 島	府中町消防団	副団長	田 村 友 明
広 島	江田島市消防団	副団長	金 川 勝 彦
広 島	安芸太田町消防団	団 員	黒 田 唯 司
山 口	下関市消防団	副団長	西 野 武 男
山 口	山口市消防団	副団長	田 中 政 昭
山 口	萩市消防団	団 長	山 根 勝 美
山 口	萩市消防団	分団長	岡 弘
山 口	萩市消防団	班 長	山 中 一 夫
山 口	岩国市消防団	部 長	森 岡 弘 人
山 口	柳井市消防団	副団長	芳 岡 逸 策
山 口	山陽小野田市消防団	副団長	有 田 次 男
山 口	周防大島町消防団	団 員	佐 藤 亀 内
山 口	周防大島町消防団	団 員	西 村 隼 人
山 口	上関町消防団	副分団長	新 升 久 人
山 口	平生町消防団	分団長	山 本 達 雄

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
徳 島	牟岐町消防団	団 長	小 林 章
徳 島	牟岐町消防団	副団長	藤 原 健 一
徳 島	那賀町消防団	分団長	中山美由喜
香 川	観音寺市消防団	団 長	大 西 光 雄
香 川	三豊市消防団	分団長	大 楠 哲 哉
香 川	三豊市消防団	副分団長	新 出 清
香 川	三木町消防団	班 長	元 山 長 一
香 川	多度津町消防団	班 長	岡田比羅雄
愛 媛	四国中央市消防団 伊予三島方面隊本部	分団長	白 田 正 義
愛 媛	新居浜市消防団	副分団長	原 道 次
愛 媛	西条市消防団	団 員	上 野 清 七
愛 媛	今治市消防団	班 長	藤 澤 信 弘
愛 媛	上島町消防団	団 長	檜 垣 秀 明
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	曾 亀 岸 秋
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	小 倉 直 茂
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	青 木 徳 太 郎
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	松 本 義 雄
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	片 岡 衛
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	吉 中 光 春
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	吉 田 好 輝
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	横 川 照 喜
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	西 森 是 文
愛 媛	久万高原町消防団	団 員	竹 村 忠 嘉
愛 媛	松山市消防団	団 員	池 内 敏 文
愛 媛	松山市消防団	団 員	野 村 頼 男
愛 媛	松山市消防団	団 員	田 村 富 男
愛 媛	松山市消防団	団 員	石 田 義 矩
愛 媛	松山市消防団	団 員	三 好 貢
愛 媛	松山市消防団	団 員	田 中 源 一
愛 媛	松山市消防団	団 員	小 島 政 昭
高 知	室戸市消防団	団 長	太 田 博 久

都道府県名	所 属 名	階 級	氏 名
高 知	高幡消防組合 梶原消防団	団 長	長谷部 悟
高 知	中芸広域連合 馬路村消防団	団 長	平 山 崇
高 知	高知市消防団	副団長	宮 崎 貞 男
高 知	本山町消防団	副団長	佐古田國光
高 知	香美市消防団	副団長	五百藏 透
高 知	仁淀川町消防団	分団長	岡 崎 定 春
高 知	越知町消防団	班 長	望 岡 洋 志
高 知	仁淀川町消防団	班 長	大 田 太 猪 助
高 知	佐川町消防団	団 員	片 田 寿 彦
高 知	高知市消防団	団 員	内 田 隆 浩
長 崎	長崎市消防団	団 長	寺 田 信 雄
長 崎	松浦市消防団	団 員	金井田彌太郎
長 崎	五島市消防団	団 員	松 本 惟 志
長 崎	五島市消防団	副分団長	中 本 重 且
長 崎	五島市消防団	分団長	中 本 長 幸
福 岡	赤村消防団	団 長	松 本 國 廣
佐 賀	大町町消防団	団 長	原 田 守
佐 賀	唐津市消防団	団 長	山 下 満
佐 賀	吉野ヶ里町消防団	副団長	野 口 善 重
熊 本	熊本市消防団	団 長	米 村 昌 昭
熊 本	熊本市消防団	副団長	関 谷 英 二
宮 崎	都城市消防団	団 長	莫 根 秀 春
宮 崎	三股町消防団	団 長	中 村 修 一
鹿 児 島	鹿児島市消防団	団 長	古 野 満 雄
鹿 児 島	鹿屋市消防団	団 長	西 蘭 孝 行
鹿 児 島	垂水市消防団	副団長	瀬 脇 正 道
鹿 児 島	鹿児島市消防団	副団長	有 川 昭
鹿 児 島	鹿屋市消防団	分団長	池 畑 國 雄
鹿 児 島	鹿児島市消防団	部 長	柳 田 順 一

弘作雄雄行和晃也人典樹美修茂義郎也
 光悠大幸光知清和義克秀隆兼義達
 倉倉倉井井岡園園園吉吉山山山樂樂樂
 内内内今今村西之西之西末末末森森森安安
 馬史昭和美薰介作加さ弘信作一忍悟治貴也幸
 拓源和美清伸勇美あ義正健淳翔美裕直弘
 口野野野井井井田原野田田野野野留留留倉
 野中中中藤藤藤藤藤石上圓圓圓圓圓川川川滿滿滿内
 剛磨男幸太德久德男代人子二樹夫史男朗昇樹
 富宗竜輝輝久正都正妙賢直幹博義史正直
 川川盛盛盛崎崎崎崎崎吉吉吉吉吉野野野野野口口
 中中福福福福福野野野野野時時時時時下下下野野
 和治也志勇己一美寛一美弘子規秋忠光文
 德良達清貞清里竜裕康由浩喜貴雅
 佐佐佐保保保保保永永尾尾下内内内内内川
 宇宇宇鹿兒島内内内内内内内末永永永山盛盛盛堀堀堀之内内内中
 治聰典太太光郎翼二弘哉聡勉誠郎雄裕信政太
 幸広健優孝裕一誠昌信計一数誉忠英康
 葉岡葉葉葉葉葉斐斐斐斐斐村村村木木木原原原島島島
 椎松椎椎椎椎甲甲甲甲甲奧奧奧奧奧黑黑黑中中中中中中中
 久治憲憲憲夫寿徹直幸春也人彦樹幸晴人之治志
 和憲知俊富士伊隆智哲隼範直知快吉公昭博
 砂原原原木木木田田田田田股股股田田田葉葉葉葉葉
 瀨寺寺寺高高高高高甲甲甲甲甲三三三三三小小小椎椎椎椎椎

※全国消防長会会長表彰※

(35名)

都道府県名	所 属 名	氏 名
北海道(道西)	南渡島消防事務組合消防本部	木村 修
北海道(道央)	小樽市消防本部	青山 光司
秋 田	秋 田 市 消 防 本 部	小林 博美
岩 手	盛岡地区広域消防組合消防本部	古舘 謙護
福 島	いわき市消防本部	吉田 丈己
新 潟	新 潟 市 消 防 局	米田 修
群 馬	前 橋 市 消 防 局	中澤 勇一
栃 木	日 光 市 消 防 本 部	山口 久
茨 城	つくば市消防本部	櫻井 正昭
埼 玉	春日部市消防本部	笈田 一夫
山 梨	富士五湖広域行政事務組合 富士五湖消防本部	渡邊 正通
長 野	長 野 市 消 防 局	岩倉 宏明
長 野	松 本 広 域 消 防 局	櫻井 貞文
静 岡	富 士 市 消 防 本 部	中川 勇
愛 知	一 宮 市 消 防 本 部	伊藤 健
岐 阜	岐 阜 市 消 防 本 部	伊藤 進
三 重	伊 賀 市 消 防 本 部	山中 治紀
富 山	富 山 市 消 防 局	吉田 一夫

都道府県名	所 属 名	氏 名
石 川	金 沢 市 消 防 局	大野 耕司
福 井	福 井 市 消 防 局	塚本 政敏
滋 賀	大 津 市 消 防 局	丸山 忠司
奈 良	奈 良 市 消 防 局	徳岡 泰博
和歌山	和 歌 山 市 消 防 局	林 正義
大 阪	枚方寝屋川消防組合消防本部	岡本 治康
兵 庫	尼 崎 市 消 防 局	本田 良生
鳥 取	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	山田 充志
広 島	広 島 市 消 防 局	滝澤 宏二
香 川	高 松 市 消 防 局	高島 眞治
徳 島	徳 島 市 消 防 局	岡田 陽彦
高 知	高 知 市 消 防 局	蒲原 利明
佐 賀	佐 賀 広 域 消 防 局	大島 豊樹
長 崎	長 崎 市 消 防 局	福本 恵介
大 分	大 分 市 消 防 局	小野 覚
鹿兒島	鹿 兒 島 市 消 防 局	藤崎 誠
沖 縄	那 覇 市 消 防 本 部	玉城 則雄

※日本防火・防災協会会長表彰※

優良幼年消防クラブ (38団体)

都道府県	団 体 名
北海道	真駒内幼稚園幼年消防クラブ
青 森	美野原保育園幼年消防クラブ
岩 手	黒沢尻保育園幼年消防クラブ
宮 城	登米市立北方幼稚園幼年消防クラブ
福 島	ひかり保育園幼年消防クラブ
茨 城	太田進徳幼稚園幼年消防クラブ
栃 木	足利市幼年消防クラブ連絡協議会
群 馬	いずみ幼稚園幼年消防クラブ
埼 玉	社会福祉法人まるよ会 横田保育園幼年消防クラブ
千 葉	社会福祉法人恵福社会長浦保育園
神奈川	石塚保育園幼年消防クラブ
新 潟	社会福祉法人北越福祉会北越保育園
山 梨	双葉幼稚園幼年消防クラブ
富 山	富山市立清水保育所幼年消防クラブ
石 川	鶴来第二幼稚園幼年消防クラブ
岐 阜	学校法人溪泉学園幼稚園 幼 年 消 防 ク ラ ブ
静 岡	藤田幼稚園幼年消防クラブ
愛 知	大口幼稚園幼年消防クラブ
滋 賀	彦根市立金城幼稚園幼年消防クラブ
三 重	神戸保育園幼年消防クラブ
奈 良	黎明保育園幼年消防クラブ
和歌山	学校法人本願寺学園鷺森幼稚園 幼 年 消 防 ク ラ ブ
大 阪	桃の里幼稚園幼年消防クラブ
兵 庫	白鳥保育園幼年消防クラブ
岡 山	八浜保育園幼年消防クラブ
鳥 取	湯梨浜町立はわいこども園
鳥 根	日原幼年消防クラブ
広 島	わかば保育園幼年消防クラブ
山 口	三見保育園幼年消防クラブ
徳 島	社会福祉法人大原福祉会 大原保育園ちびっこ消防隊
愛 媛	東温市立川上幼稚園 幼 年 消 防 ク ラ ブ
香 川	観音寺市立大野原幼稚園 幼 年 消 防 ク ラ ブ
高 知	梶原幼稚園幼年消防クラブ
佐 賀	大川内保育園幼年消防クラブ
長 崎	社会福祉法人長崎北保育園
熊 本	かおう保育園幼年消防クラブ
鹿児島	成川幼年消防クラブ
沖 縄	あゆみ保育園幼年消防クラブ

優良少年消防クラブ (35団体)

都道府県	団 体 名
北海道	東月寒少年消防クラブ
青 森	福浦少年消防クラブ
岩 手	矢巾町少年消防クラブ
宮 城	気仙沼市立階上中学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
福 島	会津若松市立行仁小学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
茨 城	かすみがうら市立志筑小学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
栃 木	足利市立協和中学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
群 馬	前橋市立細井小学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
埼 玉	入間市消防少年団
千 葉	小金北地区少年消防クラブ
東 京	金 町 消 防 少 年 団
神奈川	大和市少年消防団
新 潟	夷浜消防部少年消防隊
山 梨	塩山少年消防クラブ
富 山	高岡市立東五位小学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
石 川	二塚子ども消防クラブ
岐 阜	坂祝中学校少年消防クラブ
愛 知	豊田市立竜神中学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
三 重	下大久保町少年消防クラブ
奈 良	生駒台少年消防クラブ
大 阪	泉佐野市少年消防クラブ
京 都	城陽少年消防クラブ
兵 庫	尼崎市立若草中学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
岡 山	川入少年消防クラブ
広 島	六区少年少女消防クラブ
徳 島	西須賀少年消防クラブ
愛 媛	松山市立味酒小学校 少 年 消 防 ク ラ ブ
香 川	亀阜小学校少年消防クラブ
高 知	赤岡町少年防災クラブ
福 岡	大川市少年消防クラブ
長 崎	志佐ジュニア消防クラブ
熊 本	八千把小学校少年消防クラブ
大 分	姫島村立姫島中学校 少 年 消 防 隊
鹿児島	山川少年消防クラブ
宮 崎	北郷小中学校少年消防隊

優良婦人消防クラブ (47団体)

都道府県	消 防 団 名
北海道	小樽市女性防火クラブ連絡協議会
青 森	新川原婦人防火クラブ
岩 手	一関地域婦人消防協力隊
宮 城	南蒲生町内会婦人防火クラブ
秋 田	大館市餅田婦人防火クラブ
山 形	尾花沢市婦人防火協力隊連絡協議会
福 島	本宮市女性消防協力隊
茨 城	さわき幼稚園女性消防隊
栃 木	那須塩原市黒磯婦人防火クラブ連絡協議会
群 馬	安中市女性防火クラブ
埼 玉	加須市女性防火クラブ
千 葉	市川市婦人消防クラブ
東 京	日本堤防火女性部
神奈川	湯河原町女性防火クラブ
長 野	秋山婦人防火クラブ
新 潟	新潟市防火連合協議会婦人防火部会
山 梨	島田女性防火クラブ
富 山	笠木婦人消防隊
石 川	小松市西軽海町女性防火クラブ
福 井	鯖江市婦人防火クラブ
岐 阜	中津川市連合女性防火クラブ
静 岡	ひくま女性防災クラブ
愛 知	蒲郡市女性防火クラブ
滋 賀	坂本八区女性消防隊
三 重	桔梗が丘一番町女性防火クラブ
奈 良	鳥見地区女性防災クラブ
和歌山	有田市婦人防火クラブ
大 阪	ぬかた女性防火クラブ
京 都	多門院婦人消防隊
兵 庫	西宮市家庭防火クラブ
岡 山	笠岡市馬飼婦人防火クラブ
鳥 取	湯梨浜町旭女性消防隊
鳥 根	魚瀬婦人自治消防隊
広 島	甲奴町女性消防クラブ
山 口	柱 島 婦 人 消 防 隊
徳 島	藍畑婦人防火クラブ
愛 媛	今治市別宮校区婦人防火クラブ
香 川	王越婦人防火クラブ
高 知	安芸市女性防火クラブ
福 岡	久留米市女性防火クラブ連合会
佐 賀	呼子町婦人防火クラブ
長 崎	伊良林平地区婦人防火クラブ
熊 本	宇城市婦人防火クラブ
大 分	マミーズ鶴岡婦人防火クラブ
鹿児島	成川区婦人防火協力会
宮 崎	川南町商工会婦人防火クラブ
沖 縄	名護市女性防火クラブ



「結いのこころ それこそが力なり」



奄美市消防団 団長 安田 和廣

1 奄美市の紹介

鹿児島から南へおよそ380kmに位置する面積約720km²の島にあり、人口約4万5千人で、名瀬地区、住用地区、笠利地区で構成されています。

日本で2番目に大きいマングローブの原生林、国の特別天然記念物アマミノクロウサギなど太古の生命が息づく金作原原生林、奄美十景として知られる夕陽の美しい大浜海浜公園、限りなく広がる水平線と亜熱帯の風景を思い起こさせるあやまる岬など多くの自然と景勝地を有しています。

そして現在、特異な奄美の自然景観及び生物多様性地域の保全並びに希少野生動植物の保護を図り、世界自然遺産登録の実現に向けて取り組んでいます。



奄美祭り

2 消防団の組織・現況

奄美市消防団は、平成25年4月1日現在、4方面隊16分団417名（内女性団員28名）で構成されており、「わきゃ島は、わきゃで守る」（自分達の島は、自分達で守る）という郷土愛の旺盛な者ばかりです。

消防車両等の設備については、団本部車1台、ポンプ自動車10台、小型動力ポンプ付積載車42台を配備し、それぞれに必要な機材を搭載して、予防広報活動、防災活動や消火活動にあたっています。

3 消防団の活動

当消防団の活動としましては、毎年1月に挙行する奄美市消防団出初式に始まり、操法大会、火災予防運動での訓練、月1回の定例訓練、また地域で行われる花火大会、イベントの警備活動に積極的に参加しています。奄美祭りでは、手作りの纏を振って、拍子木を鳴らし「火の用心」を呼びかけながらパレードに参加し評判を呼んでいます。

キョラムン（美しい・可愛い）でパワフルな女性消防団員の活動も活発になり、住警器の調査、要援護者住宅防火訪問を実施、女性ならではの目線で適確な対応を行

い、地域の高齢者などが安心安全に暮らせる街づくりに貢献しています。

また普通救命講習をはじめとする救急講習にも応急手当指導員として参加し「救命の連鎖」と「救命のリレー」が市民に広く普及するように訓練や指導に取り組んでいます。

4 奄美豪雨災害を経て

平成22年10月20日の奄美豪雨災害では、本市を含む奄美大島において死者3名、家屋の全壊17棟、半壊548棟、床上床下浸水892棟の被害があり、道路のいたる箇所です冠水や越水、崖崩れなどの土砂災害が発生し孤立する集落が続出しました。

この災害時に、地域の情報を把握し、いち早く避難誘導、救助活動などができる消防団や住民の力によって、救出された多数の災害弱者と言われる人たちがいました。今後は、防災関係機関や自主防災組織との連携も非常に重要となってきています。

また、この豪雨災害時の消防団の活動に対して、9月1日には平成25年度防災功労者内閣総理大臣表彰を授与されました。

豪雨災害から3年目の今年10月19・20日には奄美市住用町にて、鹿児島県消防協会主催の消防団図上訓練が、山口大学理工学研究科の瀧本浩一准教授を講師として招いて、奄美地区12市町村の団員が参加し開催されました。

災害に備えての消防団としての心構え、火災・地震・津波等に対する予防、減災について多くのことを学びました。

奄美群島日本復帰60周年という記念の今年、離島というリスクを抱える奄美群島の消防団員が一同に集まり訓練・交流が出来る



奄美豪雨災害

たことは、近隣市町村への相互応援、連携協力が重要になってくるため、大変意義のある場となりました。

5 終わりに

超高齢化社会、限界集落、自然災害の脅威と社会状況の変化が激しい昨今ですが、災害現場は時間が勝負であるため、いざという時は地域密着の消防団が率先して活動を行わなければなりません。

奄美が誇る「結いの精神」を胸に、消防団が地域防災の中核として、地域住民から信頼されるように団員一丸となって、更なる精進に励んでいきたいと思えます。「ディ！キバレ消防団！」（さあ！頑張れ消防団！）



消防団図上訓練



「不死鳥福井」



福井市消防団 団長 藤田 貞武

1 福井市の紹介

福井市は、みどり豊かな福井平野の中心に位置し、一乗谷朝倉氏遺跡に代表される優れた歴史遺産を持ち、雄大な山なみや美しい日本海、清らかな三大河川（足羽川、九頭竜川、日野川）を擁し、県都として福井県の政治・経済・教育・文化・情報などの中枢機能が集積しています。

また、明治22年に市制が施行され、当時4万人足らずの人口は、今日では、26万人を超えております。

この間、昭和20年7月の福井空襲、23年6月の福井大震災などにより再度にわたって壊滅的な打撃を受け、更に水害等、幾多の災害に見舞われてきましたが、市民の「不屈の精神によって不死鳥」のようによみがえり、北陸の雄都として、発展を続けています。



一乗谷朝倉氏遺跡

2 福井市消防団の概要

昭和46年に常備消防が1市2町1村で構成する消防組合となったのに合わせて、昭和48年に消防団も消防組合内で1団制としました。

その後、平成7年に、4つの消防署の管轄区域に合わせ、地区団長制度を導入し、定年を延長（副分団長以上70歳、部長以下65歳）しました。また、平成21年4月1日には、消防団組織の再編を行いました。再編前は1団、43個分団でしたが9個分団増やし、1団、53個分団とし、小学校区毎に分団を設置、更に、これまでは通し番号であった分団名称を、市民がわかりやすく、親しみやすいものにするため、数字から小学校区と同じ名称としました。この再編により、消防団員の条例定数も914名から1,011名に変更し、消防団員の減少が問題となっているなかで、現在は定数近くの団



巡回教養（放水訓練）

員を確保することができました。

これに併せて各分団に分団詰所を建設し、軽デッキバン消防自動車を順次配備しております。

また、昭和59年には女性団員「ファイヤーエンジェルス」が発足し、マーチングカラーガード隊として福井市消防音楽隊とともに、消防関係の式典や区民体育祭等の各種イベントに出演し、火災予防のPRを行っています。



軽デッキバン消防自動車

3 福井市消防団の活動

主な活動内容

月別	行事	内容
1月	消防出初式	木遣り行進、はしご乗り、一斉放水
	文化財防火訓練	消防訓練
4月	山林火災防ぎょ訓練	消防訓練
6月	市防災訓練	初期消火訓練指導等
7月	消防団巡回教養	通常点検、基本操法
	消防団長視閲	通常点検、規律訓練、ポンプ操法
	県消防操法大会	ポンプ車、小型ポンプ
11月	一般住宅防火訪問	1分団…約200戸
12月	歳末消防特別警戒	各分団本部で警戒待機（29日・30日）
通年	毎月1回以上	規律訓練、ポンプ操法

4 おわりに

福井市消防団は、今後とも団員が一丸となって、地域住民の信頼と期待に応えるべく、自治会・自主防災組織との一層の連携を深めるとともに組織の充実・強化を図って防災力を向上し、安全で安心なまちづくりに貢献して参ります。



消防出初式（木遣り行進）



「地域社会を守る消防団」



かつらぎ町消防団 団長 木村 幸義

1 かつらぎ町の概要

かつらぎ町は和歌山県の北東部、伊都郡の西部に位置し、和歌山市からは約30km、大阪市からは約40kmに位置しています。北部に和泉山脈、南部に紀伊山地を仰ぎ、町中心部を東西に紀の川が、花園地区に有田川が流れています。

町域は面積151.73km²、東西14.7km、南北29.3kmで、人口は18,254人（平成25年9月末時点）となっています。

道路は、和歌山市から京都市に連絡する国道24号が東西に貫き、これと並行に、現在建設中の京奈和自動車道路があり、平成24年に紀北かつらぎICが開通しました。また、大阪府方面に連絡する国道480号が南北に通っており、これらの国道や県道など

が本町の幹線道路となっています。

気候は温暖で適度な寒暖差もあり町内各地で数多くのフルーツが栽培されています。中でも平核無柿の生産高は日本屈指であり、また、四郷地区を中心に作られる串柿も名産品となっています。

平成16年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されている丹生都比売神社、高野山町石道などの文化遺産もあり、歴史とフルーツのまちとして「笑顔で暮らせるまちづくり」を進めています。

2 消防団の組織

かつらぎ町消防団は、昭和33年の2町1村合併後、平成17年の花園村との編入合併を経て現在に至っています。消防団の構成

は、全体を掌握する本部に「団長」と「副団長」4名、「会計旗手分団長」を1名配置し、分団は8分団34部で構成、総勢439名の団員で活動しています。消防機材等については、指令車1台、ポンプ車8台、小型可搬ポンプ34台、救助資機材搭載型車両1台を配備し、地域住民の生命・身体・財産を守るため日夜活動しています。



出初式での放水演習

3 消防団の活動

災害現場での活動として、火災における消火活動、台風や集中豪雨における風水害への対応が主なものですが、このような緊急事態に即時対応できるよう日頃から機器の点検・訓練を行い、消防本部での普通救命講習を受講するなど、出勤に備えております。

かつらぎ町は中山間地域であるため、大規模山林火災を想定し長距離中継送水訓練も定期的を実施しています。

また、2か月に一回、本部役員・分団幹部による消防団運営会議を開催し、団活動について協議するとともに、安全管理・消火戦術・常備消防との連携活動等についての研修を行っています。この他にも新入団員訓練、防災訓練、災害による孤立集落を想定した無線通信訓練、地域消防協会の訓練・研修会、火災予防運動における防火広報や、幼年防火クラブとの防火パレード、その他町内の各種イベント等にも協力し、地域と一体となった消防団を目指し精力的に活動しています。

4 終わりに

近年では、異常気象による局所的な集中豪雨や竜巻の発生など、災害も多様化の傾向にあり、地域住民の消防団に対する期待はさらに大きくなっていると感じます。地域に密着した消防団の果たす役割は今まで以上に重要となっており「自分たちのまちは自分たちで守る」ため、訓練・研修等に励み、地域密着性、要員動員力等、消防団の特性を発揮し、地域住民の安全安心のため団員一丸となり活動していきたいと考えています。



新入団員訓練での講義



水防工法訓練



シンフォニー（福岡県）

「第21回全国女性消防操法大会に出場して ～厳しい訓練と暖かい応援に感謝～」

太宰府市消防団 女性部 部長

平田 和美

“別れ！”という号令と共に私達の甲子園は終わった。

走馬灯のように長い訓練期間の出来事が頭を駆け巡り、全力で応援して下さった方々の想いに応えることができなかった悔しさと、最高の晴れ舞台上で最高の自分たちを出し切れなかった無念さで涙がただただ溢れた。競技中は、無我夢中で競技のことは何も覚えていませんが、本番一発勝負の難しさを改めて知らされました。

私たちの住む太宰府市は、国立博物館や重要な史跡が数多く残る緑豊かな観光地です。

太宰府市消防団女性部は平成14年4月に発足し、現在10名のメンバーで火災出動を始め、訓練、高齢者の防火訪問等を行っています。中でも消防職員と一緒に年間40回程度出向している普通救命講習会では、全員が応急手当普及員の資格を取得して積極的に救命講習の指導を行っています。また、防火・防災についての寸劇を行う等、予防啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

2年前の夏、私達は前回の全国大会に出場された福岡県八女市女性消防隊の陣中見舞いで、初めて軽可搬ポンプ操法を知りました。規律正しく美しく、息の合った機敏な動作と訓練中の張りつめた空気、その凛とした姿は9年間活動してきた私たちには足りないものでした。



晴々とした競技者の顔

団長の“本当にやってみるか？”の一言に、“ただやりたい”“技術を身に付けたい”という一心で、今回の全国大会を目標に定め、訓練に取り組むことを心に決めました。

ある程度規律も身につけてきた頃、選手の発表がありました。平均年齢が48.9歳、選手候補が10人しかいない中で一番体力とスタミナを要する2番員は、日々トレーニングを積み重ねてきた自分がやるしかない、身体的にきつい思いは自分がするという覚悟があったので、2番員に選ばれて安心しました。また、選手と選手以外との思いに差があっては、2年後の全国大会出場は実現できないと思い、応援側の隊長と腹を割って話をしました。選手になれなかった悔しい思いは選手が共に背負って全力で挑むので、全力で応援して欲しいと。あの

夜、お互いの気持ちが一つになったからこそ、同じ目標に向かって心一つに頑張ってくれたと思います。

初めての出初式での展示操法は、今までになく快調で、規律を重点的に美しく見せることを目標にやり遂げることができて、清々しい自分達の気持ちの表れのようなものでした。また、やり終えた私たちに迎えてくれた温かい笑顔と拍手は、私たちを2年後へのステップへと導いてくれました。

いよいよ全国大会に向かってタイムを追う訓練が変わっていきました。しかし、なかなか60秒の壁を破ることができず、全国大会のDVDや訓練を記録したビデオを何度も見て消防署員の方々と協議を重ね、初めて50秒台を出した時は、全員で飛び上がって喜びました。

第1回福岡県女性消防操法大会では、模範演技としての展示操法という大役を任せられ、重圧で押し潰されそうな中、全力で自分達の操法を堂々で行うことができました。

真冬の寒いグラウンド、酷暑の訓練も団長を始め、ご指導頂いた消防署員の方々、応援して下さった団員の方々と共に全国大会に向けて取り組んで行きました。

全力でサポートしてくれた女性団員は、寒い時には温かい飲物を、暑い時は毎回凍らせたおしぼりと冷たい飲物を休憩時に差し出してくれました。訓練中はいつも“体調は大丈夫？頑張って”と温かい気配りもしてくれて、本当に厳しい訓練も毎回楽しく力を合わせ励まし合い乗り切ることができました。訓練で使用するホースを巻く場面では、毎回男性団員に積極的に指示を出したり、私達が納得いくまで何度もホースを巻き直してくれました。その一つひとつのことが、心から信頼し合い、何でも打ち明けられる仲間との関係をつくり、時には

本当にきつい訓練でも、常に楽しく前向きに取り組むことができました。

全国大会では、私達のベストタイムは出し切れませんでしたが、仲間の一人が最優秀選手賞に選ばれました。最後まで私達を信じ、背中を押し続けてくれた仲間達、夢を実現して下さいました全ての方々に心から感謝いたします。

私達は10人という限られた人数で訓練を重ねてきました。前日の事前訓練中に4番員が倒れてしまい、当日は棄権になるかもしれないという不安の中、大会当日を迎えました。あの舞台上で私達10名が一丸となって福岡県代表として操法を成し遂げることができたのは、この大会出場のために関わって下さった全ての方々のお力があつたからです。この紙面をお借りして心より深く感謝申し上げます。

私達のチームワークは、間違いなく日本一です！

勝つこと以上に大切なものを、この大会で学ぶことができました。

今後はこの素晴らしい経験と悔しさをバネに更にチャレンジを重ね、また今回応援してくれた仲間達をお手本に後進の育成に向かって前進していきます。

太宰府市消防団 バンザイ！

本当にほんとうに、ありがとうございます！



太宰府天満宮への必勝祈願

「笑顔のため、僕に出来ること」

松山市消防団 大学生防災サポーター 香川 直輝



災害は一瞬で人から「笑顔」を奪います。2011年3月11日東日本大震災からもうすぐ3年が経とうとしていますが、当時報じられた被災者やその家族の悲痛な表情は、今なお私の目に焼きついています。

私は子どもの頃から消防士になるという夢があり、震災の被害に大きな衝撃を受けたものの、震災復興ボランティアへ自ら参加するわけでも南海トラフ巨大地震に備え家族と対策をするわけでもなく、気づけば何も行動しないまま1年以上が経過していました。大学も3回生となり、まわりは就職活動一色、当然私も夢を叶えるため消防職を目指して勉強していましたが、そこで実際に市職員に合格した先輩や同じ夢を持つ友人から様々な経験談を聞く中で「はたして自分は震災の経験から何か行動してきただろうか」と考えさせられました。そんな時、先輩の勧めで出会ったのが大学生防災サポーターです。市民の安全・安心を担う一員として、初めて青い活動服に袖を通した時、「よっし！やるぞっ！」と意気込んだのを今でもはっきりと覚えています。

我々大学生防災サポーターは、地震など大



消防防災研修会

規模災害時に限定した活動を行う機能別消防団員で、松山市が全国に先駆けて発足させた組織であり、若さや行動力そして専攻学科の知識、通訳など、大学生ならではの能力を生かした消防団員です。普段の活動は、いざという時のため応急手当講習会の受講、その指導員として地域の方への応急手当指導、消防団広報活動や防災訓練など、機能別消防団員とは言え、その内容は多岐にわたりとても充実しています。

私が入団して初の活動は出初式でした。晴れの舞台ということでもとても緊張しましたが、リハーサルで何度も規律訓練を行い、本番ではきびきびと行進することが出来ました。また私たちの隣には現役の消防士の方々が行進されており、やはり動き、姿勢ともに別格で、その姿にすごく刺激を受けるとともに「自分も消防組織の一端である」ということを改めて実感し、活動への強い意欲を持つことが出来ました。

この防災サポーター活動の中で一番印象に残っているのが8時間×3日間の長時間にわたる応急手当指導員講習です。これは私たち



応急手当指導員講習会



各種イベントでの応急手当指導

防災サポーターが地域の方々に救命の指導する指導員の資格を取得するための講習会で、1日目、2日目は座学や実技で知識や技術を身につけ、3日目は応用や発表を行い2日間学んだ知識や技術を定着させるといった内容のものでした。

2日間の講習でしっかりと傷病者に遭遇した時の安全確保や対応の方法、負傷箇所の被覆や傷病例を学び、私の中ではある程度の自信がありました。しかし、そう考えていたのも最終日に一蹴されてしまいます。3日目は、実際の災害現場を想定し5人1班でバス事故の交通救助現場で救護に当たるというもので、自分はその班長として訓練に臨みました。しかし実際に助けを求める人々を目の前にすると、学んだはずの技術や知識も真っ白になり、班長という立場でありながら混乱してしまい、班員をうまくまとめることができませんでした。「もしこれが実際の現場だったら…」と恐怖すら覚えていましたが、講習終了後「あ



防災訓練での避難所運営訓練



規律訓練

の時こう対応したらよかったなあ」「もっとここでこうしていたら冷静に行動できたなあ」など、ふと考えると防災サポーターを始める前には全く考えることもなかった人命救助について真剣に悩み考えている自分がいました。そして「あの訓練は上手く出来なかったけど、こうやって日頃から、もしもの時どう行動すべきかを考えることが大切なんだ!」ということに気付くことが出来ました。

それからの私は、まずは自分のまわりからということで、家族間で災害時の避難経路を真剣に話し合い、家の中で倒れそうな家具には突っ張り棒を取り付けるなど家内の地震対策を行いました。現在は防災サポーターとして自分だけが防災知識を有するのではなく、周りにも共有してもらうため、大学内のサポーター同士で協力し合い、大学祭などを利用して、消防団員募集パンフレットや非常持ち出し品チェックリストを配布し、防火・防災の普及活動に取り組み、家族・友人・地域の人々の「笑顔」を守っています。

私は、防災サポーターとして学んだ経験を活かし、消防士になるという子供のころからの夢を叶えることが出来ました。今春から松山市消防局の消防士の一員として消防学校に入校し訓練に励みます。これから消防士として自分の人生を歩んでいきますが、この防災サポーターで得た知識、技術を生かしながら、たくさんの市民の「笑顔」を守っていけるよう日々努めて行きます。

「消防団応援の店」に関する検討会を開催

(財)日本消防協会

平成24年度から日本消防協会では、消防団員の確保対策として消防団員及びその家族に対して、一定の割引サービスを実施する等、消防団員を優待する店を設ける施策を導入している市町村があるところから、愛媛県松山市、山梨県南アルプス市、静岡県駿東郡長泉町等の現地調査を行い、その情報を幅広く関係者に周知することで消防団員確保対策の参考となるよう「日本消防」に掲載してきました。

また、他にも導入している事例や導入を検討している消防団があるので、昨年8月に全国調査を行いました。

その結果、地域にあるお店が応援してくれることから消防団員の士気の向上に繋がる、家族で利用できることからメリット感があるということから、取り組みは増えつつあり、その効果も見られる一方で、市町村単位での導入では利用範囲が狭い、消防団員であることを証明する消防団員証を作成する必要がある、その費用・作業面から導入については、課題があることも窺える結果となりました。

これを踏まえ、「消防団応援の店」に関して日本消防協会としての今後の対応を検討するうえでの参考にするため、「消防団応援の店」に関する検討会を2回開催して、ご意見をお聞きしました。

検討会での主な意見

- 「消防団応援の店」の普及は、消防団員の確保と地域の活性化に繋がる。
- 「応援の店」のサービスは、危険と直面する活動をしている消防団の仕事をご理解頂いている「応援の店」の好意と自主性に基づいて行われている。
- 「応援の店」を継続することの重要性和困難性に留意する必要がある。
- 「応援の店」に関する情報をさらに収集し、全国の消防団に伝える必要がある。
- 関係する全国的な団体や企業への情報提供、働きかけなども検討すべきである。

検討会委員（五十音順）

井戸善昭氏（松山市消防団 副団長）
小澤浩子氏（赤羽消防団 副団長）
佐藤 敦氏（消防庁 対策官）
谷口由美子氏（公益財団法人 東京防災救急協会 講習指導担当部長）
長谷川祐子氏（リスクウォッチ代表）
山崎登氏（NHK解説主幹）（座長）

日本消防協会は、ご出席者からいただいた貴重なご意見を参考として、今後、全国的な動向も見ながら、対応のあり方を引き続き検討します。

なお、松山市消防団から報告された事例を参考として次に掲げます。

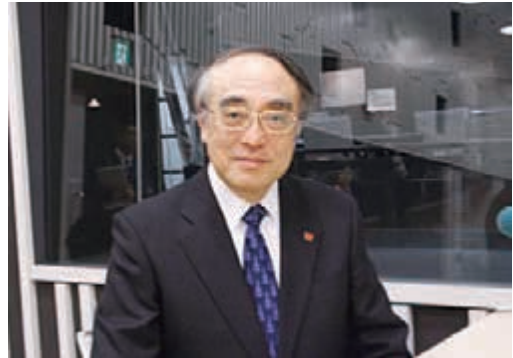
松山市消防団の取り組み

- ・ 市長の政治姿勢として、まちを挙げて消防団を応援する体制づくりを行うとともに、市長自らが、ケーブルテレビによる市政広報番組で消防団員応援事業を説明。きっかけは、市長が「消防団員を市民全体で応援し、消防団員になって良かったと感じて頂けるような事業をやっていこう」という一言で始まった。
- ・ 全国で実施している事業を参考にして、松山独自の取組みを加えて誕生したのが「まつやまだん団プロジェクト」で、この「だん団」というのは、松山の方言で「ありがとう」という意味があり、消防団に感謝という気持ちを込めて、消防団担当の女性職員が命名。
- ・ 市内の応援事業所に提示することで、団員が家族共々割引等の優遇が受けられるIC機能付き団員証を作成し、団員全員に配布。消防団員証にIC機能を付加することで、デポジット料が1枚当たり千円かかる場所を民間の伊予鉄道さんの協力を得て無料にしていた。
- ・ 団員証に顔写真を入れることで、団員2千4百名分のデータを全て確認にする作業は、非常に大変であった。
- ・ 応援の店を集めるために、最低五十店舗を目標にし、月刊誌クーポンマガジンに消防団員募集広告（広告料二十〜三十万円）出すとともに、消防団員も普段から利用するお店に一軒一軒お願いして回った。
- ・ そうした苦勞の末、現在、飲食店を中心に美容室や、小売店舗など約100店舗に利用料金の割引や増量など様々な内容で消防団員を応援していただいている。
- ・ 例として、焼鳥屋さん、消防団員証を掲示するとグループで5%の割引、焼鳥の盛り合わせを頼んだら、1本のサービスを、また、美容室ジョージさんは、会長・社長の地域貢献の気持ちが非常に高く、現在、市内15店舗で1割引のサービスです。
- ・ タイヤマンさんは、ブリジストンのタイヤを2割引のサービス、その他、サントリービバレッジサービスからの協力を得て、消防団員応援自動販売機を設置してもらい、その売り上げの一部を消防団の活動経費として寄付していただいている。（現在、市内に10か所ある。）
- ・ 消防団の会議や訓練などの際に使う清涼飲料水も、団員証を掲示することで格安で提供してもらい、今夏には、ビールの格安キャンペーンもしてくださった。
- ・ 消防団員応援の店を団員に活用してもらう方法として、松山市・松山市消防協会のホームページに加え、団員の参集などに使うメールシステムを活用して、店の写真や地図、優遇サービスの内容等を周知している。
- ・ こうした取り組みにより、本市消防団員の実員は平成17年の2,150名から本年12月現在の2,443名と実に300人近くの増員ができ、これに伴い定数改正をし2,301名から200名増員の2,501名の定数となっている。この消防団員応援事業を愛媛県全体に広げるために、来年度からの実施を目指して具体的に事業を進めている。
- ・ 消防団員の社会的な認知度を高め、地域の人に消防団員の存在を分かってもらい、頼りにされることで、消防団員もやる気が高まる。そのためにも、「消防団員応援の店」の取り組みは大変重要である。

ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 大石利雄 消防庁長官 出演

山本アナ：昨年の6月に消防庁の長官に就任され、半年が過ぎましたが長官の仕事は、いかがですか？

大石長官：消防の任務は、災害から国民の命と財産を守ることです。昨年の夏は各地で記録的豪雨が発生しました。10月には伊豆大島で台風26号により大きな被害を受けました。博多の診療所火災でも多くの方が



犠牲になりました。今日、首都直下地震や南海トラフ地震等、大地震の発生も危惧されています。こうした中で身を引き締めて職務に取り組んでいます。

山本アナ：さっそく消防団に関してお話を伺っていきましょう。まずは、大石長官は、消防団と言う組織の役割についてどうお考えですか？

大石長官：消防団は災害発生時には、地域に密着した動員力で、即時に対応して頂ける頼もしい組織です。消防団員は、常勤の消防職員と違って他に仕事を持ちながら、いざという時に「自らの地域は自ら守る」というボランティア精神で消防活動に当たる非常勤の特別職地方公務員の方々です。

昨年10月、台風26号に襲われた伊豆大島では、320人の地元消防団員が災害発生直後から救助活動に駆けつけ、その後住民の避難誘導に当たり、大きな役割を果たしました。

昨年11月には東京ドームで天皇、皇后両陛下ご臨席の下に消防団120年自治体消防65周年記念大会が盛大に開催されました。総理大臣をはじめ三権の長のそれぞれの祝辞において、消防団員の皆さんに対して深い感謝と敬意が表されました。

山本アナ：まさに地域になくってはならない存在と言うわけですが…現在の消防団にはどんな課題があるのでしょうか？

大石長官：消防団員数は、かつて全国200万人を超えていましたが、現在は約87万人にまで減少しています。近年は年々5・6千人ずつ減少しており、地域の防災力確保の観点から

深刻な状況です。

山本アナ：大きな課題の一つである団員の減少に歯止めをかけるべく、現在、どんな取り組みをされているのでしょうか？

大石長官：勤め人の消防団員が多くなっているわけですから、会社や事業所などの理解が不可欠です。消防庁では、消防団に協力して頂いている事業所には「消防団協力事業所表示証」というマークを交付して、感謝の気持ちを表しています。協力事業所に対して法人事業税を減税している県もあります。

昨年11月には、都道府県知事と市区長村長あてに、総務大臣から消防団への加入促進を要請する親展の書簡をお出ししました。最近増えている女性や学生の入団を促進して頂くことを併せて、地域に密着している地方公務員の入団促進を要請したところです。現在6万人の地方公務員が消防団員になっていますが、更に増やして頂きたいとお願いしています。

山本アナ：そして東日本大震災では、消防団員の方が危険の迫る中で活動を続け、住人の命を救う一方、多くの方が殉職されました。この震災での消防団員の方の活動について伺えますか。

大石長官：東日本大震災においては、被災地の消防団員は、自らも被災者であったにもかかわらず、水門閉鎖や被災者の救助、避難住民の誘導など様々な活動に献身的に従事されました。こうした活動の中で254名の消防団員の方々が犠牲になったことは痛恨の極みです。

山本アナ：今回の震災で得た教訓から、現在どんな指導や取り組みを行われているのでしょうか？

大石長官：東日本大震災では、連絡用の無線機を持っていなかったために、今にも津波が押し寄せるなかで、水門閉鎖に向かっていった消防団員が命を落とすことになりました。こうしたことを踏まえ、消防団員の皆様には、まず、自分の身の安全を図りながら活動して頂くことをお願いし、併せてトランシーバーやライフジャケット、安全靴といった必要な装備の充実を図り、消防団活動に万全を期せるように支援して参りたいと考えています。

山本アナ：最後に、全国の消防団員の皆さんにメッセージをお願いします

大石長官：全国の消防団員の皆さんの日頃の活動に対しまして、改めて敬意と感謝の意を表します。また、消防団活動にご理解を頂いているご家族の皆様方にも厚くお礼申し上げます。

今日、消防団に対する国民の期待は、益々大きくなっています。国民の安心、安全のため、これからも力を合わせて頑張りましょう。よろしく申し上げます。

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(財)日本消防協会



平成25年11月放送分に
出演の消防応援団
徳光和夫さん

11月2日又は11月3日放送



島根県松江市消防団
団長
松浦 嘉昭さん

「今回、出演させていただき大変ありがとうございました。

徳光さんと会話をする事ができたことは誠に光栄で、人柄の優しさに触れることができたことは幸せに感じました。

これからも地域住民の安心・安全な生活を守るべく消防団活動に精進していきたいと思っております。」

11月9日又は11月10日放送



東京都
東京消防庁音楽隊
隊長
五十嵐 清さん

東京消防庁音楽隊の活動や消防団120年記念大会での演奏について、楽しくトークさせて頂きました。

音楽隊は、「消防団員募集」とラッピングしたバスで各地に移動し、団員募集PR活動もしています。

これからも、音楽を通して防火防災を呼びかけていきます。

11月16日又は11月17日放送



石川県金沢市消防団
団長
澤飯 英樹さん

お電話であっても緊張して、あっという間の話でした。それでも、徳光さんとお話が出来、とても光栄です。

金沢市の消防団は、加賀鷹梯子登りという石川県指定無形民俗文化財を継承している消防団として、2015年の北陸新幹線金沢開業に向けて、全国にその名を発信していきたいと思っております。」

11月30日又は12月1日放送



神奈川県寒川町消防団
団員
守屋 浩章さん

徳光さんとは地元の話などで楽しい会話ができました。今後も地域の活動に積極的に参加し、団員の募集に役立てたいと思っております。」

平成25年12月放送分
出演の消防応援団
西郷輝彦さん



12月7日又は12月8日放送



鹿児島県鹿児島市消防団
副団長 内大久保 清志さん

ゲストの西郷輝彦さんと同郷ということで、消防団員家族表彰の受賞を機に出演依頼をいただきました。憧れの先輩と電話対談ができて光栄に思います。

12月14日又は12月15日放送



和歌山県田辺市消防団 第1分団
団員 岩峪 靖さん

この度は、デビュー50周年を迎えるスーパースター西郷輝彦さんと対談できました事、また、我々田辺市消防団の活動を全国の皆さんに伝える事が出来た貴重な経験ありがとうございました。今後も田辺市消防団を皆で盛り上げていきたいと思ひます。(^^)

12月21日又は12月22日放送



広島県府中町消防団
班長 香川 敦晶さん

ラジオ放送ということで非常に緊張しました。しかし、私自身が行っている消防団員としての活動内容や少年消防クラブへの取り組みをお話することができ、とても良い経験ができました。今後も地域の防火、防災に貢献していきたいと思ひます。

12月28日又は12月29日放送



山形県山形市消防団
班長 月田 和美さん

初めてのラジオ出演であり、憧れの西郷輝彦さんとの対談で大変緊張しましたが、素晴らしい機会をいただき感謝しております。

これからも、地域の防火・防災のために、様々なことにチャレンジしていきたいと思ひます。



平成26年1月放送分に
出演の消防応援団
吉幾三さん

1月11日又は1月12日放送



青森県つがる市消防団
部長 田村 修二さん

このたび、番組の出演依頼を受け、地元青森県出身の吉幾三さんと会話ができとても感動しました。出演のため、当消防団の自慢の「玉落競技大会」や当地の歴史を調べたり、消防団の現状など色々勉強になりました。今後も市民の安全・安心のため、また、つがる市消防団を自慢できるよう微力ではありますが頑張ります。

1月18日又は1月19日放送



山梨県山梨市消防団
喇叭隊長 山本 英記さん

吉さんと山本アナのおかげで、緊張せずに話す事が出来ました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。これからも「まちを守る消防団員」として、また「カッコイイ喇叭隊」を目指して頑張ります。

1月25日又は1月26日放送



京都府宇治市消防団
副団長 太田 勝啓さん

最近ピンポイント的に起こりうる自然災害に備え、改めて消防団の必要性が見直されている事を痛感致しました。

これからも消防団員一丸となり、安全・安心なまち作りを目指していきます。

第17回消防個人年金海外視察

(財)日本消防協会 年金共済部

日本消防協会では、消防個人年金の加入者等とその家族を対象とした海外視察を実施しており、今回は平成25年12月1日(日)から8日(日)までの8日間、23名の参加者でイタリア(シチリア島・ローマ)を訪れました。

イタリアの面積は30.1万km²(日本の約5分の4)ほどの長靴のような形をした国ですが、その先端にある大きな島がシチリア島です。シチリア島の面積は2.5万km²で四国の1.4倍ほどの大きさで、四方が地中海に囲まれており、ヨーロッパ最大の活火山でいつも噴煙を上げているエトナ山(3,326m)があり、訪問したときには雪をかぶっていました。緯度でいうと北緯37~38度に位置しており、日本では宮城県や山形県と同じ緯度ですが、温暖な地中海性気候により東京より暖かったです。

今回は、シチリア島及びローマに滞在し、エトナ山の麓の観光地タオルミーナ、モザイク絵画で有名なカザレ別荘、神殿の谷などシチリア島をぐるりと巡り、ローマではサンピエトロ広場やパンテオン、トレビの泉などの観光地を巡ることができました。

そして、視察6日目には、首都ローマにてイタリア内務省消防救助・民防局(Firefighters, Public, Rescue and Civil Defence Department)「国家消防指令センター」を訪れました。内務省ということもあり、セキュリティチェックは空港と同様の厳しさでした。

イタリアには20の州があり、1つの州の中でいろいろな組合や団体を組んで消防活動などを行っています。全国には3万人の常備消防士と2万人の消防団員がおります。今回訪問した「国家消防指令センター」は、地震災害や大型客船の座礁など非常事態が発生したときに、必要とされる隊(チーム)に対し出動を指示す



エトナ山とタオルミーナの町

る場所です。イタリアの消防組織は日本の自治体消防と異なり、国家組織となっているため、1つの州で大きな災害があった場合には「国家消防指令センター」が中心となって、他の州から必要な隊(チーム)をその時々を選別し派遣することができます。

2012年1月13日、クルーズ客船コスタ・コンコルディアが、イタリアのジリオ島付近にある浅瀬で座礁し、浸水・転覆し死者・行方不明者32名を発生させた事故では、水深50~60mもある浸水部分への救助活動に対しては潜水チームを出動させ、浸水していない部分に対しては、船が横転したため通路部分が縦長空間となっており、複雑な空間と化していたため、洞窟や山、川などの専門救助チーム(ASF)を出動させることを決めたとのことでした。

出動させられる隊は多岐にわたっており、空港用消防隊や港用の消防艇、普通の消火隊、救助隊や火災調査隊、飛行機2機、消火用飛行機19機、ヘリコプター40機、ショベルカー、電気通信隊、都市災害救助隊・災害救助犬、余震でこれ以上建物を崩壊させないショアリング技術を持ったチームなど専門で特殊な隊が多くあります。

イタリアも日本と同じく地震が発生する国ですが、震災があったときには、日本の緊急消防援助隊のように全国からいろいろな隊(チーム)が集まり、1つの混合基地を作って活動し、規模が大きくなれば2つ、3つの基地を作るそうです。

日本と同じく歴史があり自然が豊かで、地震があったり、火山があったり、海に面していたりと共通点が多くあるイタリアの非常事態への危機応急対応を学ぶことができ、また、参加者からの消防の現状などについての活発な質問についても親切にご回答をいただいたくなど、大変貴重で有意義な海外視察となりました。



国家消防指令センターのみなさんと

第13回全国中学生 「防火防災に関する」作文コンクール

生活協同組合 全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中学生を対象とした防火防災に関する作文コンクールを行っております。

各都道府県の支部から、「わたしのまちの消防団」を作文のテーマとし、選抜された作品72点の中から、当共済会において、厳正なる審査を行った結果、最優秀賞には熊本県益城町立木山中学校2年徳永柚紀さんの作品が選ばれました。

佳作以上の作品については、入賞作品集としてとりまとめて、全国の消防機関等へ配布いたしました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞（1名）

熊本県 益城町立木山中学校 2年 徳永 柚紀 さん

優秀賞（3名）

岩手県 洋野町立中野中学校 2年 舘 彩哉子 さん

岩手県 花巻市立西南中学校 3年 高橋健太郎 さん

茨城県 笠間市立東中学校 2年 畑岡 里穂 さん

佳作（7名）

富山県 砺波市立庄川中学校 1年 野原 海斗 さん

三重県 津市立西橋内中学校 3年 松林 里歩 さん

三重県 三重大学教育学部附属中学校 1年 清水 大誠 さん

滋賀県 滋賀県立水口東中学校 2年 猪井 桃香 さん

兵庫県 西脇市立西脇中学校 3年 大南 璃乃 さん

兵庫県 多可町立加美中学校 1年 小林 葵 さん

広島県 大竹市立大竹中学校 1年 福屋 里奈 さん

熊本県

益城町立木山中学校 二年

徳永 柚紀

ある消防団員の話

祖父にとって消防団はもう一つの青春だったようだ。長話が嫌で、日頃あまり話をしない祖父に思い切ってインタビューした。

十八歳で消防団に入り、第五分団第五班に所属。最終的には益城町消防団の団長になった。入団した時には、「自分の家からは絶対に火は出せない」と責任を感じるとともに、「この町からも絶対に火は出させない」と周囲に上がる煙を常に意識していたそうだ。

消防団の活動は単に防火を呼びかけるだけではない。実際の火災の現場に出動することだってあり得る。だから、操法大会と的落とし大会に向けて二か月も前から練習をする。規則正しく行動しつつ、いかに速く放水するか、いかに正確に的に当てるかを消防署の方々が審査をする。練習の甲斐あって二十歳の時、益城町大会で三位に入賞したそうだ。

また、月に一度は積載車の点検と機械の整備をしていたし、年末には消火器の点検にまわり、防火を呼びかけ、防火水槽の点検もしていた。

平成三年、台風十九号が熊本を襲った時には、益城町は停電と断水に見舞われた。祖父たちは丸五日間、給水活動に追われたそうだ。また、山に入ったまま行方不明になった方を朝の六時から二日間、捜索したこともあったそ

うだ。

団員の人たちは消防が仕事ではない。皆、他の仕事を持っている。ボランティアだ。にも関わらず、地域のためにこれだけ尽くしているとは。

インタビューをしていくうちに、消防団と祖父のイメージがガラリと変わってきた。

「じいちゃん、カッコイイね。」

「なんだ、いきなり。」

祖父がニヤリと笑う。

「そうだ。楽しいこともあったぞ。」

行事や活動が終わると反省会が行われた。そこではお酒を飲むこともあったらしい。反省会なのにお酒とは思っていると、「そこで学んだことが人生のうえで重要だったかもしれない」と語り出した。

「社会ではとても大切な礼儀と人間関係についてしっかりと学ぶことができた。おかげで他の地域の方々と交流を持った時でも恥をかかなくてすんだ」そうだ。祖父の西原村消防団OBの方との交流は、引退した今も二十二年間続いている。」

インタビューをしているうちに、防火防災を通して消防団は「地域の絆」を作っているのだと思い至った。限界集落や認知症高齢者の増加、高齢者の孤独死が社会問題となっている今、消防団の活動はますます重要性を増していくに違いない。

地域を支えてきた祖父たちの活動を知らないまま過ごしていた私は顔が赤くなる。

「じゃ、次の話はな……。」

今日の長話は悪くない。

消火栓や防火水槽付近への駐車は 禁止されています

総務省 消防庁 消防・救急課

皆さん、消防隊が消火に使用する水は、消火活動中にどうやって補給しているかご存じですか？池や川の水を吸い上げて補給することもあります。多くの場合は道路脇や歩道上に設けられた消火栓や防火水槽から補給しています。

しかし、消火栓や防火水槽付近に駐車している場合、水が補給できず消火活動に支障をきたします(左下写真)。

消火栓や防火水槽付近に駐車することは法律においても禁止されていますので、絶対に駐車しないでください。



消火栓の上に車が止まっているため、消防自動車は消火栓を使用することができません。



消火栓は、消防自動車が吸水しやすいように、道路脇や歩道上に設置されています。消火栓など、消防水利周辺への駐車はやめましょう。

駐車が禁止されている主な場所

消火栓、防火水槽
などから5メートル
以内の部分



問い合わせ先
消防庁消防・救急課 花田
TEL : 03-5253-7522

消防団への入団促進

総務省 消防庁 防災課

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つであり、消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安心・安全の確保のために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

さて、平成23年3月に発生した東日本大震災をはじめ、平成25年台風第26号等の大規模災害において、消防団員は住民の避難誘導等を献身的に行いました。このように、全国の消防団は、地域の防災力の中心として昼夜を分かたず果敢に活動し、被害の拡大防止や、住民の安心・安全の確保に不可欠な存在です。

しかしながら、過疎化、少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、消防団員数は年々減少し続けており、平成25年4月1日現在、約86万9千人で10年前の平成15年4月1日の約92万8千人に比べ、約6万人（約6.4%）減少し、地域における防災力の低下が懸念されています。

このような中、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全の確保に資することを目的として、議員立法による「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が平成25年12月13日に公布され、同日付けで一部規定を除き施行されました。今後消防庁では、この法律に基づいた施策を実施していきます。

また、全国の消防防災機関では、消防団員の確保に向けた様々な取組を展開しているところですが、例年3月末から4月にかけて消防団員の退団が特に多くなる時期を迎えることから、今年度も1月から3月までの間、全国的な「消防団員入団促進キャンペーン」を実施します。

本キャンペーン期間中は、消防団員の確保に向けて特に、事業所の協力促進並びに女性及び大学生等の入団促進に重点的に取り組むこととしています。

○消防団活動への事業所の協力の促進

現在の消防団員の約7割が、会社員などの被雇用者であり、消防団活動には、事業所の協力が不可欠となっています。平成18年度から消防団協力事業所表示制度がスタートしており、勤務中の出勤への便宜や従業員の入団促進を図るなど事業所ぐるみで積極的な活動を行っていただいている事業所も多く、既に平成25年4月1日現在で「消防団協力事業所」として約9千5百の事業所が認定されています。

○女性の入団促進

女性を消防団員として採用しようとする動きが全国的に広まっており、平成25年4月1日現在、全国で約2万1千人の女性消防団員が、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動等、多岐にわたって活動しています。

○大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が課題となっています。大学生等の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義で、地域の防災力向上にも効果的です。平成25年4月1日現在で約2千4百人の大学生等（専門学校生を含む。）が消防団で活躍しています。

○消防団員入団促進の取組事例



イベントにおいて消防団PRコーナーを設けた入団促進キャンペーン
(写真提供：川口市消防局)



複合商業施設での入団促進キャンペーン
(写真提供：四日市市消防団)

問い合わせ先

消防庁防災課 山下
TEL：03-5253-7525

地震発生時の出火防止

総務省 消防庁 防災課

地震が発生したときに起こる火災が、地震そのものによる被害を大きくすることは過去の事例からも明らかです。阪神・淡路大震災では285件の火災が発生し、東日本大震災では330件の火災が発生しています。出火原因としては、電気ストーブや配線などの電気関係、ガスストーブやガスコンロなどのガス機器関係、また石油ストーブなどが主なものとして挙げられています。



■初期消火

突然、大きな揺れに襲われたときは、まず自分の身の安全を守ることが大切です。あわてて行動すると、転倒した家具、飛び散ったガラスや陶器の破片で怪我をする恐れがあります。丈夫な机の下に身をかくしたり、家具から離れるなどして自分の身の安全を守り、揺れが収まったらすぐに火の始末をしましょう。揺れている時に無理をして火を消しに行くと、調理器具が落ちてきてやけどをする危険があります。

万が一、周りのものに火が付いてしまっても、初期のうちは消火器などで十分に消すことができます。速やかに消火するとともに、大声で隣近所に助けを求めることも大切です。

■電気火災を防ぐ

地震では停電することがありますが、復旧したときに転倒した電気器具が作動して出火する通電火災に注意する必要があります。避難などで家を

空けるときは、電気のブレーカーを切り、電気器具はコンセントから抜いておきましょう。

また、ブレーカーを戻す際は、転倒したままの電気器具がないか、ガス漏れがないかなど安全を確認しましょう。

■ガス漏れを防ぐ

最近、地震による大きな揺れを感知して自動的にガスの供給を遮断するマイコンメーターの設置が進んでいますが、念のため元栓を閉めてガス漏れを防ぎましょう。また、プロパンガスを使っているところでは、ボンベをチェーンで固定するなど転倒防止を行い、普段からの対策に努めましょう。



■石油ストーブの対処

最近の石油ストーブは対震自動消火装置が付いているので危険性は少なくなりましたが、過信は禁物です。必ず火が消えたことを確認しましょう。また、石油ストーブの周りに燃えやすい物を置くことは火災につながります。普段から使用上の注意を守りましょう。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 震災対策係 日野、辰巳
TEL : 03-5253-7525

「親子で学ぶ楽しい消防教室」

江南市消防本部

江南市消防本部消防署東分署・消防団第3分団は、9月7日、8日、11月17日の3日間、東分署において、消防署員と地元消防団員が連携し、親子消防教室（3日間で105人参加）を開催しました。

この教室では、防火衣や空気呼吸器を着装しての放水体験、消火器取り扱い、土のう作り、AED取り扱い・胸骨圧迫（心臓マッサージ）、新聞スリッパ作成、防災クイズ、音楽紙芝居鑑賞など、親子で楽しみながら災害への備えを学びました。

この体験を通して学んだことが、家族で安全への備えや減災行動へ取り組むきっかけになればと期待しています。



うちの

名物団員



島根県

海士町消防団 副団長

野津 昇昭



野津さんは、消防団歴30年のベテラン団員で、現在、副団長として活躍中です。職業は、町内のガソリンスタンドに勤務し、主に機械類、バイク、自転車などの修理屋さんとして中高生から高齢者まで幅広い年齢層の方々から頼りにされています。

また、青色防犯パトロールの隊員にも委嘱されており、地域の防犯活動にも熱心に取り組んでいます。誰もが安心して暮らせる町にしたいという思いが人一倍強い野津さんです。

今後も、更なる活躍が期待されます。

福岡県

太宰府市消防団 第一分団 第2自動車部 班長

柴田 浩二



太宰府市消防団第一分団第2自動車部に所属する柴田浩二班長をご紹介します。

学問の神様として知られる太宰府天満宮で神職をされている柴田さんは、普段は白衣と袴姿がよく似合う神主さんですが、いざ火災が発生すると白衣袴を活動服に着替え、いの一に火災現場に駆けつけます。

また、忙しい仕事の合間を縫って消防団活動に励んでおられますが、消防団以外の活動にも熱心で、中学校のPTA会長や商工会青年部活動等にも従事してきた経歴を持つ、地元が大好きな、地域の方々からの信頼も厚い神主さんです。

鹿児島県

屋久島町消防団 班長

中馬 慎一郎



中馬班長は、ここ世界自然遺産の島「屋久島」でガイド業を営んでおり、神秘的な山の案内からスキューバダイビングでの海中散歩まで屋久島のすばらしさを余すところ無く多くの方々に伝えています。

そんな中馬班長は、その特技を生かし消防団山岳捜索隊や水難救助隊に所属し、操法大会では指揮者を務めるなど、幹部や若手からも一目おかれる存在です。屋久島を訪れる機会がありましたら是非お声をかけて下さい。

福井県

福井市消防団 松本分団 分団長

佐々木 末一



「火の用心・チョン・チョン」と、拍子木を製作しているのは、うちの名物団員である「リフォーム職人」の佐々木分団長です。昨年の11月で、消防団歴38年になりました。

これまでも市民の防火意識の向上に繋がればと拍子木を製作し、全消防分団に配布、地域の子供会や歳末の警戒時に活用されています。

現在作成中の拍子木は、2月に落成式を予定している中消防署に寄贈するものです。これまでも消防団員の操法訓練に役立てようとホースの電動巻き取り機を開発するなど、消防団に対する思いも人一倍強く、誰からも親しまれています。



消防団の広場

島根県 「絆が強まった平成25年 夏」

江津市消防団
団長

横田 賢次郎



江津市は島根県の中央部よりやや西寄りに位置し、市の中央を中国地方随一の大河である「江の川」が南北に悠々と流れる河口を中心としたまちです。

これまで、数々の洪水がありました。今年の夏もまた、豪雨災害に見舞われました。

観測史上最高を記録した猛烈な雨のなか、昼夜を問わずポンプを使用して排水し

たり、土のうを積んで浸水を防いだりしました。残念ながら数多くの人家や農地、また道路や河川などに大変な被害を受けましたが、幸いにも人的被害がなかったのが何よりでした。

その活動では、日々の精進と本市で開催された島根県消防操法大会で培った組織力がいかんなく発揮されました。

大会では、早朝に降った雨により会場が水浸しになり、一時は開催が危ぶまれましたが、スポンジで水分を吸収するなど懸命に作業を行い、無事に開催することができました。また、結果もポンプ車の部優勝、小型ポンプの部2位という最高の成績を得ることができました。

今後も消防団活動から得られた絆をより強固なものとして、地域の安全・安心のため尽力してまいります。





栗原市消防団花山地区団
団員

三塚 ひろみ



消防団に入団して9年になりますが、初めて全国女性消防団活性化大会に参加しました。

会場に入り、まずびっくりしたのは女性消防団員の多さでした。

全国にはこんなに沢山の女性団員が活動しているんだ、どんな事をしているのだろうと思ひながら大会が開会しました。

始めは活動事例発表、カラーガード隊や消防団のホームページ作成など内容を聞いて家事や仕事の中、少ない時間で活動して

いる姿に感動しました。

火災予防の啓発劇はどれも手が込んでいて分かりやすく、子供向けに作られたものや、普段思っけていてもなかなか伝えられない防災への意識など、とても素晴らしかったです。

私は岩手・宮城内陸地震の時に、自分の住んでいた地区のお年寄りの安否確認や声かけなどをしましたが、あの時はまさかこんな事が起こるなんて思いもしませんでした。

それからしばらくして東日本大震災もあり、ますます防災への意識付けは大事なんだと思う毎日です。

活性化大会に参加して学んだ事を、今後の活動に役立てて行きたいです。



平成25年度 全国統一防火標語

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

2月の日本消防協会関係行事

2月5日(水)～2月7日(金)	第13回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)
2月12日(水)～2月14日(金)	第13回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)
2月21日(金)	都道府県消防協会事務局長会議
2月27日(木)	消防団員確保対策等委員会 日本消防協会正副会長会議
2月28日(金)	日本消防協会役員会議(理事会、代議員会) 第66回日本消防協会定例表彰式

編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年中は「日本消防」をご愛読いただきましてありがとうございました。本年も誌面の充実のために努力してまいりますので変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。私の日本消防協会への派遣任期も残りわずかとなりましたが、最後まで全力で編集に携わっていく所存でおりますのでよろしく願いいたします。

さて、本号にありましては「日本消防」の歴史に例を見ない増大号でお届けします。昨年11月25日に東京ドームで開催した、消防団120年・自治体消防65周年記念大会について詳しく掲載しています。既に新聞、雑誌、機関誌等で掲載や特集をされておりますが、開催機関である我が日本消防協会ならではのボリュームと構成となっておりますので、ぜひご覧いただき、保存版としていただければ幸いです。(M・K)

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十七巻第一号
平成二十六年一月五日印刷
平成二十六年一月十日発行

編集人 生嶋 文昭
発行所 財団法人日本消防協会
東京都港区虎ノ門二丁目九十六
電話 〇三(3503)一四八二(代)

印刷所
東京都文京区湯島三丁目二十一十二
日本印刷株式会社
電話(383)六九七二(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

「火災共済金は1500倍補償」

B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金
※共済への加入にあたり、組合員となっていたいただくための出資金が別途必要となります。



共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆破・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門2-9-16

日本消防会館6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.nissho.or.jp>

消防個人年金

消防個人年金は、将来の自分の為の積立年金制度で、(財)日本消防協会が第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

消防個人年金を紹介します

- 1 予定利率は**1.25%**です。
- 2 **月払、半年払、月払と半年払の併用**から
払い込み方法をご選択頂き、**掛金1万円**(ゆうちょ銀行は5千円)からご加入頂けます。また、まとまった資金を**一時払**することもできます。
- 3 年金は、**年4回**で受給して頂けます。
- 4 **退団・退職後も継続**できます。



そのほか詳しくは、ホームページをご覧ください。